

2019年度

FD報告書



京都ノートルダム女子大学



はじめに

本報告書では、2019年度のFD活動を振り返り報告します。本学は、2017年4月に福祉生活デザイン学科・心理学科・こども教育学科の3学科からなる「現代人間学部」を開設し、2019年度はこの新しい学部に通期生を迎えた年でした。また、2019年4月に、英語英文学科と人間文化学科の2学科からなる人間文化学部を「国際言語文化学部」に名称変更しました。この国際言語文化学部は、大学創立時から存在する英語英文学科と国際日本文化学科（人間文化学科から名称変更）の2学科から構成されています。

このような大学の変革・発展にあわせて、FD活動が充実したものとなるよう、今年度は以下のような事業を企画し、実施しました。

1. 学生による授業評価アンケートは、2018年度に紙の質問票を使用した実施から、教育支援システム（manaba）を利用したオンラインでの実施に移行しました。これに伴い、アンケート結果の回収及び集計は「ND教育センター（旧・徳と知教育センター）」が担うことになりました。FD委員会は主に専門教育科目の集計結果から課題を抽出し教育改善に活用する方策の検討及びその実施を担当しています。今年度も例年と同様、学部生による授業評価アンケートは前期及び後期に全科目を対象に実施しました。

一方、大学院生による教育評価アンケートは、例年同様に後期に実施しました。

アンケート結果の活用については本報告書のそれぞれの章で紹介しますが、改善を担当部局に依頼する、各種の会議で関係者に情報を共有するといった対策を行いました。

2. FD研修会については、2019年度は9月にアクティブラーニングをテーマに「大学の授業改革が求められる時代に向けて～動画教材『大学の授業を極める』で学ぶ教授法～」と題して実施しました。さらに、文部科学省における数理及びデータサイエンス教育の推進を反映し「FD勉強会：データサイエンス活用カフェ」を2回開催しました。

3. オープンクラスに関しては、前期は2週間をオープンクラスウィークとして、教職員や学生が、一部の非公開授業を除く全ての学部授業を自由に授業を参観できる機会を提供しました。後期は、約2週間の期間に事前に選定した19の授業を公開する形式で実施しました。これは、公開する授業の数を限定する方が授業を参観しやすいという教員からの意見を反映したものです。

4. 外部講演会や研修会等についても、情報提供を折々に行い、教職員へのFDへの啓発活動を行いました。

本報告書に掲載されている諸データから、本学の教育活動の現状を読み取ることができます。また今後の課題についても言及しています。ご一読を賜り、本学の教育・研究の更なる

発展と向上に役立てていただけるよう、お願いを申し上げます。時代の変化にも対応しつつ、教職員一同が継続的にFD活動に取り組んで行けるよう、FD委員会はこれからも様々な活動を推進して参ります。

2020年（令和2年）3月

京都ノートルダム女子大学
FD委員会委員長 吉田 智子

2019年度 FD 報告書

目 次

はじめに	1
目次	3
I 2019年度「学生による授業評価アンケート」実施報告	4
1. 実施目的	4
2. 実施概要	4
3. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	7
4. 集計結果表	8
(1) 【全学部】	8
(2) 【開講所属別】	
1) 共通教育科目	9
2) 英語英文学科専門教育科目	11
3) 人間文化学科専門教育科目	13
4) 現代人間学部共通科目	15
5) 福祉生活デザイン学科専門教育科目	17
6) 心理学科専門教育科目	19
7) こども教育学科専門教育科目	21
8) 生活福祉文化学部専門教育科目	23
9) 心理学部専門教育科目	25
10) 資格科目等	27
II 2019年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告	29
1. 実施目的	29
2. 実施概要	29
3. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	31
4. 集計結果表	32
(1) 【全研究科】	32
(2) 【研究科別】	33
1) 人間文化研究科	33
2) 心理学研究科	34
III 2019年度「オープンクラス」実施報告	35
IV 2019年度「FD研修会」実施報告	37
V 大学コンソーシアム京都第25回FDフォーラム(中止)第10分科会報告	42
2019年度FD委員会構成員・奥付	44

I 2019年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

「学生による授業評価アンケート」は、学生の意見を参考にすることで、本学の教育内容や教育方法等の課題を明確にし、教育の質的な向上を図ることを目的に、2008年度から継続的に実施されている。

2. 実施概要

1) 実施期間

前期は、2019年7月10日(水)～7月30日(火)、後期は、2020年1月7日(火)～1月28日(火)に実施した。

2) 実施方法

授業支援システム manaba を利用して、学生がオンライン入力し、回答。

3) 対象科目・調査対象者

対象科目：学部開講全授業科目（一部の学外実習科目等を除く）

対象者：対象科目の履修者

4) 実施科目数・回収率

開講所属ごとの実施状況は下のとおりである。開講所属が10の分類に分かれている。これは2017年度から現代人間学部の3つの学科（心理学科、こども教育学科、福祉生活デザイン学科）のそれぞれの「新カリキュラム」が始まったことによる。

「生活福祉文化学部専門教育科目」と「心理学部専門教育科目」は、現代人間学部開設以前の「旧カリキュラム」の開講所属である。これらは、2019年度は4年次生のみが履修する科目として開講されたため、対象科目数が少なくなっている。

開講所属	対象科目数 (a)	授業評価アンケート実施科目 回答状況		
		対象科目 履修者数	回答数	回答率
共通教育科目	225	6,940	3,417	49.2%
英語英文学科専門教育科目	189	4,064	1,848	45.5%
国際日本文化学科専門教育科目	112	1,989	927	46.6%
現代人間学部共通科目	6	423	212	50.1%
心理学科専門科目	66	2,749	1,109	40.3%
福祉生活デザイン学科専門科目	140	2,418	1,090	45.1%
こども教育学科専門科目	112	2,852	1,429	50.1%
生活福祉文化学部専門教育科目	23	148	21	14.2%
心理学部専門教育科目	45	249	33	13.3%
資格科目等	49	899	362	40.3%
計	967	22,731	10,448	46.0%

5) 調査内容 (学部)

最初に、回答者の属性 (学年・所属学部 (学科)) を尋ね、次に当該科目に関して「授業の状況」「学習の状況」「学習成果 (ND6)」「授業形態項目」「独自設定項目」について尋ねた。設問数は、選択式 16 問 自由記述 2 問である。調査項目の一覧は以下のとおりである。

当該科目に関する調査項目と回答形式

(1) 調査項目

[授業の状況]

- (1) 授業はシラバス (目標・内容・方法など) に沿った内容であった。
- (2) 授業中に使う教材 (テキスト・配布資料など) は、わかりやすかった。
- (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。
- (4) 教員の話し方は、わかりやすかった。
- (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。
- (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。
- (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。

[学習の状況]

- (8) 授業の内容は理解できた。
- (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。
- (10) この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学修しましたか。
[1(4 時間以上)、2(2~4 時間未満)、3(1~2 時間未満)、4(30 分~1 時間未満)、5(30 分未満
6(0 分))]

[学習成果] (4 年間で育てたい力 ND6) 本学では卒業時に身につけておくべき 6 つの力「ND6」を定めています。

- (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。
- (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。
- (13) この授業で、「言語力」が向上した。
- (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。
- (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。
- (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。

[自由記述]

- ・この科目 (授業) について、面白いと感じた点や学びが促進された点、授業を進める中でよかったと感じた点を記入してください (回答にあたっては、「よかった」「悪かった」の印象を書くのではなく、「〇〇が〇〇なので〇〇と感じた」など、なるべく具体的に書いてください)。
- ・この科目 (授業) について、工夫すべき点、改善してほしい点があれば、具体的に記入してください (回答にあたっては、「よかった」「悪かった」の印象を書くのではなく、「〇〇が〇〇なので〇〇と感じた」など、なるべく具体的に書いてください)。

(2) 回答形式

評価項目(1)～(9)と(11)～(16)については、以下の6件法で回答させた。

- 1: そう思う
- 2: どちらかと言えばそう思う
- 3: どちらとも言えない
- 4: どちらかと言えばそう思わない
- 5: そう思わない
- 6: 該当しない

また、(10)の1週間あたりの学修時間については、以下の6件法で回答させた。

- 1: 4時間以上
- 2: 2～4時間未満
- 3: 1～2時間未満
- 4: 30分～1時間未満
- 5: 30分未満
- 6: 0分

6) 実施手順

実施にあたってはND教育センター事務室が非常勤講師を含む各科目の担当教員に対し、授業支援システムmanabaを利用して実施するようメールにて依頼した。

アンケート実施期間中の授業において、教員が学生に対してスマートフォンやパソコンからmanabaにログインしてオンラインで返答するようアナウンスし、アンケートが実施された。教員が授業中にアナウンスしなかった科目についても、学生がmanabaにログインし開頭出来た。

2019年度は、ND教育センターが、アンケートにアクセスできるURLのQRコードをA3用紙にプリントアウトしたものを用意し、教員が学生へのアンケート依頼のアナウンス時に提示する工夫を行った。

7) 回答結果の集計

授業科目ごとの集計結果はmanabaでは自動的に集計される。授業担当教員はmanaba画面で自由記述部分も含めて閲覧できた。アンケート実施直後から、閲覧が可能であり紙での実施より即時性が向上した。全学及び開講所属ごとの集計は、ND教育センターにて行った。

8) 集計結果の教員への周知

アンケート実施直後から、担当教員は担当科目の集計結果をmanabaにログインすれば閲覧できることを、ND教育センター事務室が各科目の担当教員にメールで連絡した。

9) 集計結果の公表と教育改善への活用

教員はアンケート実施直後から閲覧できる、manabaによる集計データや自由記述項目に記載された内容をもとに授業について点検し、改善に向けた今後の取り組みについてフィードバックを行った。そのフィードバックの内容は、manabaの授業評価アンケートの部分に「結果・フィードバック」として、担当教員が書き込んだ。フィードバックの内容は、当該科目の履修者が閲覧できる。

アンケートの集計結果は、以下の方法で授業改善に活用した。

- 1) 共通教育科目はND 教育センター会議において対策を検討した。
- 2) 専門教育科目はFD 委員会において対策を検討した。各学科のFD 委員は、それぞれの学科の専門教育科目の回答（自由記述含）から読み取れる課題について、学科会議等において学科で共有し対策を行った。
- 3) 全学で共通する改善要望のうち、manaba や respon の使用方法等については、FD 委員会からND 教育センターに教員への周知を依頼した。
- 4) 教務課及び教務委員会に授業評価アンケートの結果を伝達した。
- 5) 課長会において、授業評価アンケートから抽出された、主に設備面の問題点を関係部局へ伝達し、配当教室や設備の改善を依頼した。

3. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

全学のアンケート集計において「授業の状況」の7項目すべてにおいて、1番の「そう思う」と答えた学生が過半数以上となっており、満足度の高さが伺える。また、(9)の「やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった」では、有効回答の10,342中7,153(68.5%)の回答が1番の「そう思う」であることから、真面目に授業に出席したと答えている学生が多い。

その一方で、全学のアンケート結果においては、(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修したか」の設問では5番の「30分以下」が最も多く(28.3%)選ばれており、例年と同様に、学修時間の平均は低い数値となっている。「全く学修しなかった」と返答した学生の割合も、平均で20.2%と高く、30分以下と0分を合わせると、48.5%という高い比率となっている。

開講所属別のアンケート結果では、各学部学科の結果は全学の数字とほぼ同じであるが、今年度も、唯一、「英語英文学科専門教育科目」の「学習の状況」(10)の学修時間が、30分～1時間未満と答えた割合が最も多く(28.7%)、1～2時間と答えた23.3%と合わせると、52.0%が30分～2時間未満、学修したと答えていた。

以上のように今年度のアンケート結果の数字も、概ね前年と同様の結果となった。特に前年と同様に、自学自習に費やす時間が少ないという点が目立っており、授業時間外の学修時間についての議論が必要であると思われる。

昨年度は、manabaを使った初年度という事もあり、回答数が対象科目履修者数20,530中8,136と39.6%であったが、今年度は対象科目履修者数22,731中10,448と、46.0%まで向上した(「3)実施科目数・回収率」の表参照)。紙で実施していた2017年度までの約80%の回答率に近づけることを目標に、来年度以降も回答率を上げる努力をしていくと同時に、授業評価アンケートの活用方法の議論を継続することが望ましいであろう。

文責： 吉田 智子 (国際日本文化学科 FD委員/ND教育センター 副センター長)

2019 年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

全学部

京都ノートルダム女子大学

集計単位	全学部		
履修者数	23976	全科目数	1071
回答者数	10448	実施科目数	967
対象者数	22731		

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	所属学科別回答率	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生			
国際言語文化学部	英語英文学科	1493 65.8%	666 37.5%	428 33.2%	135 32.9%	135	2722 46.2%
	国際日本文化学科	754 58.7%	575 44.8%	324 46.2%	162 38.1%	162	1815 47.9%
生活福祉文化学部						98	98 17.6%
心理学部						197	197 38.6%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	784 60.7%	403 40.1%	269 41.4%		269	1456 49.4%
	心理学科	1340 63.7%	458 29.9%	306 31.7%		306	2104 45.7%
	こども教育学科	1014 70.1%	672 39.4%	346 44.2%		346	2032 51.7%
	科目等履修生, その他					24	24 66.7%
合計		5385	2774	1673	592	24	10448 46.0%
学年別回答率		64.1%	38.0%	38.1%	22.7%	66.7%	

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない 4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			1	2	3	4	5				
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.5	6391 61.2%	2847 27.2%	816 7.8%	135 1.3%	95 0.9%	74 0.7%	10358 99.1%	90 0.9%	0.858
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	5658 54.2%	2890 27.7%	1073 10.3%	399 3.8%	223 2.1%	114 1.1%	10357 99.1%	91 0.9%	1.053
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.7	5567 53.3%	3019 28.9%	1119 10.7%	332 3.2%	195 1.9%	100 1.0%	10332 98.9%	112 1.1%	1.013
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.7	5710 54.7%	2773 26.5%	1078 10.3%	421 4.0%	325 3.1%	29 0.3%	10336 98.9%	112 1.1%	1.039
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.8	5337 51.1%	2918 27.9%	1276 12.2%	436 4.2%	303 2.9%	63 0.6%	10333 98.9%	115 1.1%	1.064
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.8	5242 50.2%	3031 29.0%	1275 12.2%	436 4.2%	317 3.0%	47 0.4%	10348 99.0%	100 1.0%	1.054
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.5	6792 65.0%	2455 23.5%	667 6.4%	264 2.5%	124 1.2%	38 0.4%	10340 99.0%	108 1.0%	0.866

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			1	2	3	4	5				
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.8	4883 46.7%	3633 34.8%	1174 11.2%	406 3.9%	202 1.9%	42 0.4%	10340 99.0%	108 1.0%	0.970
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	7153 68.5%	1871 17.9%	772 7.4%	266 2.5%	153 1.5%	127 1.2%	10342 99.0%	106 1.0%	0.988
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。	4.3	387 3.7%	714 6.8%	1688 16.2%	2463 23.6%	2961 28.3%	2110 20.2%	10323 98.8%	125 1.2%	1.343

【学習成果(4年間で育てたい力 ND6)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			1	2	3	4	5				
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.1	4055 38.8%	3208 30.7%	2002 19.2%	416 4.0%	284 2.7%	336 3.2%	10301 98.6%	147 1.4%	1.229
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.8	5168 49.5%	3445 33.0%	1177 11.3%	222 2.1%	180 1.7%	149 1.4%	10341 99.0%	107 1.0%	1.016
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.4	3598 34.4%	2789 26.7%	2240 21.4%	597 5.7%	421 4.0%	655 6.3%	10300 98.6%	148 1.4%	1.433
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.0	4075 39.0%	3480 33.3%	1830 17.5%	367 3.5%	250 2.4%	304 2.9%	10306 98.6%	142 1.4%	1.185
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.4	3452 33.0%	2885 27.6%	2343 22.4%	624 6.0%	450 4.3%	579 5.5%	10333 98.9%	115 1.1%	1.398
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.3	3528 33.8%	3102 29.7%	2295 22.0%	516 4.9%	366 3.5%	521 5.0%	10328 98.9%	120 1.1%	1.344

2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	共通教育科目		
履修者数	6940	全科目数	246
回答者数	3417	実施科目数	225

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生 学科別回答率	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語 文化学部	英語英文学科	495 65.5%	121 39.8%	115 35.0%	41 25.9%	772 48.2%
	国際日本文化学科	521 60.0%	139 43.0%	67 50.0%	49 34.8%	776 51.5%
生活福祉文化学部					28 16.3%	28 16.3%
心理学部					44 17.1%	44 17.1%
現代人間 学部	福祉生活デザイン学科	404 56.4%	62 32.0%	19 32.2%		485 50.1%
	心理学科	633 61.2%	88 29.6%	44 34.1%		765 52.4%
	こども教育学科	403 66.6%	96 38.1%	36 37.5%		535 56.1%
科目等履修生, その他					12 63.2%	12 63.2%
合計	2456	506	281	162	12	3417
学年別回答率	61.7%	36.9%	37.6%	19.6%	63.2%	49.2%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

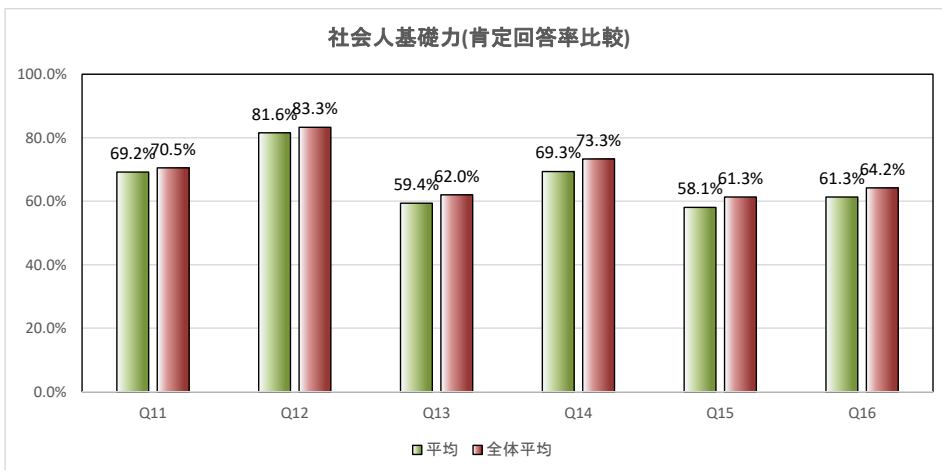
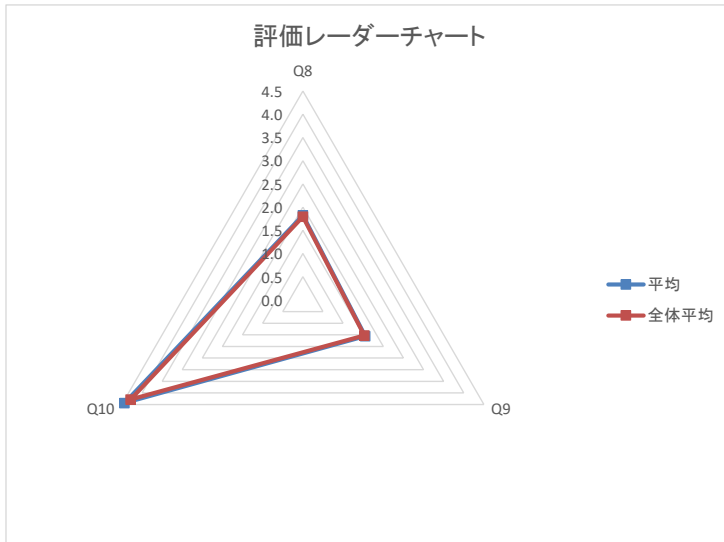
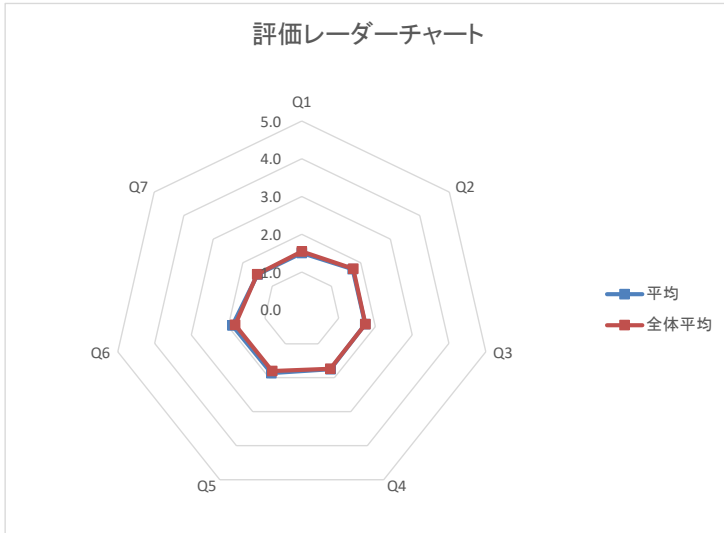
No.	設問文	全体 平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.5	2196 64.3%	857 25.1%	236 6.9%	47 1.4%	29 0.8%	23 0.7%	3388 99.2%	29 0.8%	0.843
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	1902 55.7%	926 27.1%	315 9.2%	141 4.1%	70 2.0%	36 1.1%	3390 99.2%	27 0.8%	1.048
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.7	1835 53.7%	1001 29.3%	338 9.9%	105 3.1%	66 1.9%	38 1.1%	3383 99.0%	34 1.0%	1.022
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.8	1851 54.2%	906 26.5%	343 10.0%	157 4.6%	108 3.2%	8 0.2%	3373 98.7%	44 1.3%	1.049
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.9	1692 49.5%	938 27.5%	446 13.1%	167 4.9%	121 3.5%	22 0.6%	3386 99.1%	31 0.9%	1.112
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.9	1634 47.8%	975 28.5%	447 13.1%	167 4.9%	134 3.9%	18 0.5%	3375 98.8%	42 1.2%	1.116
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.5	2226 65.1%	816 23.9%	210 6.1%	62 1.8%	52 1.5%	12 0.4%	3378 98.9%	39 1.1%	0.860

【学習の状況】

No.	設問文	全体 平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.8	1587 46.4%	1167 34.2%	387 11.3%	137 4.0%	92 2.7%	14 0.4%	3384 99.0%	33 1.0%	1.013
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.6	2295 67.2%	630 18.4%	270 7.9%	99 2.9%	55 1.6%	35 1.0%	3384 99.0%	33 1.0%	0.992
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	4.4	103 3.0%	184 5.4%	495 14.5%	763 22.3%	1017 29.8%	810 23.7%	3372 98.7%	45 1.3%	1.309

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体 平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	8.5	1315 38.5%	1018 29.8%	672 19.7%	149 4.4%	107 3.1%	111 3.2%	3372 98.7%	45 1.3%	1.250
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.8	1650 48.3%	1113 32.6%	403 11.8%	94 2.8%	72 2.1%	56 1.6%	3388 99.2%	29 0.8%	1.068
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.4	1174 34.4%	827 24.2%	736 21.5%	226 6.6%	176 5.2%	231 6.8%	3370 98.6%	47 1.4%	1.488
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.1	1242 36.3%	1093 32.0%	662 19.4%	147 4.3%	103 3.0%	120 3.5%	3367 98.5%	50 1.5%	1.251
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.5	1055 30.9%	908 26.6%	788 23.1%	238 7.0%	183 5.4%	209 6.1%	3381 98.9%	36 1.1%	1.443
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.4	1123 32.9%	954 27.9%	772 22.6%	202 5.9%	144 4.2%	192 5.6%	3387 99.1%	30 0.9%	1.397



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	英語英文学科専門教育科目		
履修者数	4064	全科目数	209
回答者数	1848	実施科目数	189

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計 学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	987 65.8%	489 36.2%	275 30.9%	79 38.0%	1830 45.4%
	国際日本文化学科	5 71.4%	4 66.7%	3 60.0%	2 40.0%	14 60.9%
生活福祉文化学部				0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
心理学部				1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0	0		0
	心理学科	3 100.0%	0 0.0%	0		3 75.0%
	こども教育学科	0	0	0		0 0.0%
科目等履修生, その他					0	0
合計	995	493	278	82	0	1848
学年別回答率	65.9%	36.3%	31.0%	27.4%		45.5%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

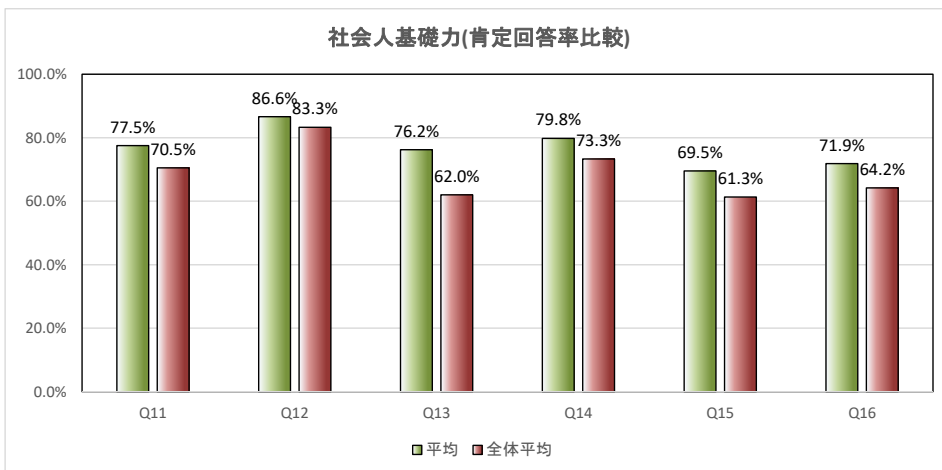
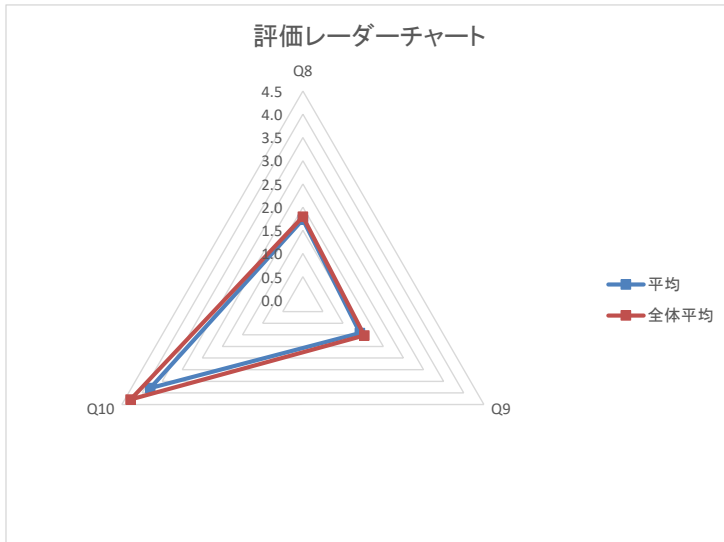
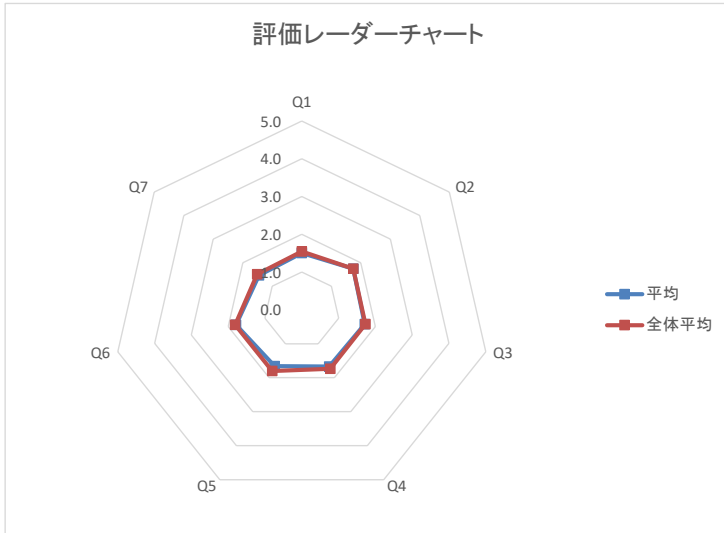
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.5	1219 66.0%	418 22.6%	135 7.3%	16 0.9%	20 1.1%	20 1.1%	1828 98.9%	20 1.1%	0.895
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	1039 56.2%	455 24.6%	190 10.3%	69 3.7%	39 2.1%	31 1.7%	1823 98.6%	25 1.4%	1.107
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.7	1029 55.7%	480 26.0%	196 10.6%	60 3.2%	39 2.1%	17 0.9%	1821 98.5%	27 1.5%	1.031
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.7	1085 58.7%	449 24.3%	167 9.0%	70 3.8%	48 2.6%	8 0.4%	1827 98.9%	21 1.1%	1.018
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.7	1069 57.8%	472 25.5%	169 9.1%	67 3.6%	41 2.2%	6 0.3%	1824 98.7%	24 1.3%	0.983
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.8	960 51.9%	514 27.8%	213 11.5%	78 4.2%	54 2.9%	10 0.5%	1829 99.0%	19 1.0%	1.059
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.5	1292 69.9%	356 19.3%	89 4.8%	58 3.1%	21 1.1%	8 0.4%	1824 98.7%	24 1.3%	0.873

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.7	923 49.9%	616 33.3%	181 9.8%	67 3.6%	30 1.6%	8 0.4%	1825 98.8%	23 1.2%	0.948
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.4	1373 74.3%	275 14.9%	97 5.2%	44 2.4%	25 1.4%	13 0.7%	1827 98.9%	21 1.1%	0.895
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	3.8	100 5.4%	185 10.0%	431 23.3%	530 28.7%	442 23.9%	139 7.5%	1827 98.9%	21 1.1%	1.280

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	4.4	826 44.7%	581 31.4%	267 14.4%	69 3.7%	38 2.1%	34 1.8%	1815 98.2%	33 1.8%	1.111
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	961 52.0%	620 33.5%	149 8.1%	49 2.7%	33 1.8%	13 0.7%	1825 98.8%	23 1.2%	0.947
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.0	828 44.8%	557 30.1%	257 13.9%	80 4.3%	45 2.4%	50 2.7%	1817 98.3%	31 1.7%	1.198
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	1.9	822 44.5%	631 34.1%	254 13.7%	53 2.9%	33 1.8%	28 1.5%	1821 98.5%	27 1.5%	1.048
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.2	705 38.1%	564 30.5%	316 17.1%	112 6.1%	66 3.6%	62 3.4%	1825 98.8%	23 1.2%	1.285
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.1	711 38.5%	601 32.5%	331 17.9%	74 4.0%	57 3.1%	52 2.8%	1826 98.8%	22 1.2%	1.210



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	人間文化学科専門教育科目		
履修者数	1989	全科目数	120
回答者数	927	実施科目数	112

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	4 100.0%	26 83.9%	7 41.2%	10 34.5%	47 58.0%
	国際日本文化学科	192 54.9%	334 46.7%	219 46.3%	93 40.6%	838 46.1%
生活福祉文化学部				3 60.0%	3 60.0%	
心理学部				11 44.0%	11 44.0%	
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	1 50.0%	1 12.5%	3 60.0%		5 33.3%
	心理学科	1 100.0%	7 46.7%	2 18.2%		10 37.0%
	こども教育学科	0	0	1 100.0%		1 100.0%
科目等履修生, その他					12 70.6%	12 70.6%
合計	198	368	232	117	12	927
学年別回答率	55.5%	47.9%	45.8%	34.4%	70.6%	46.6%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

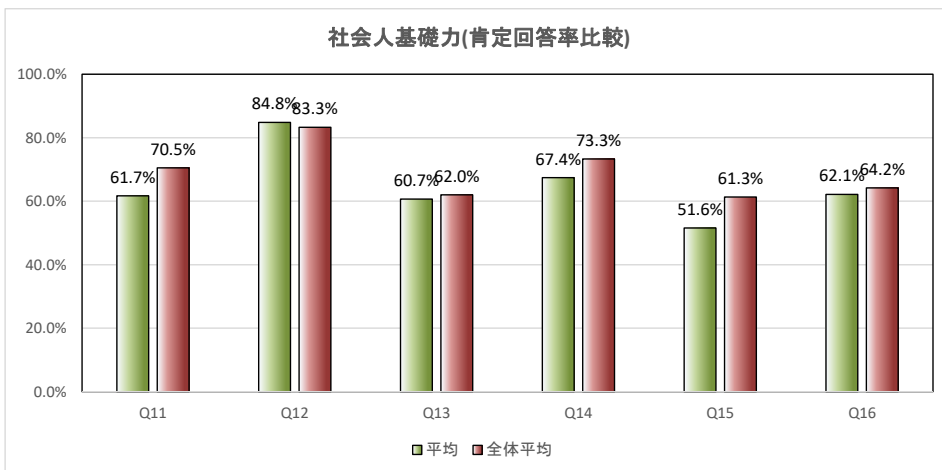
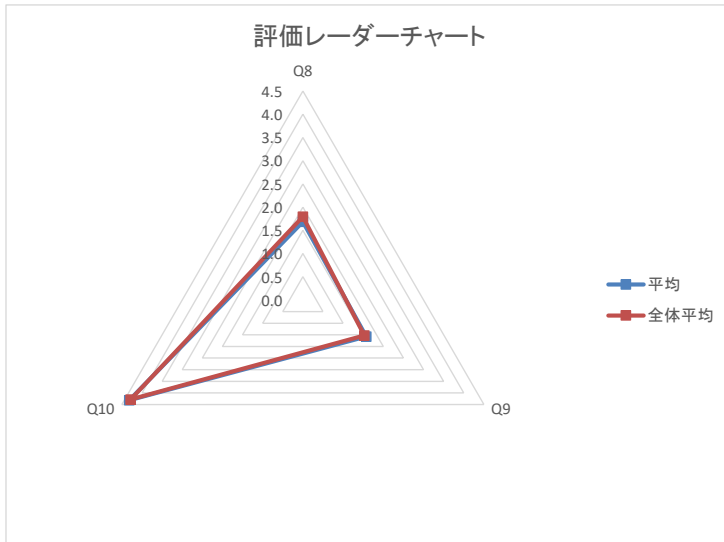
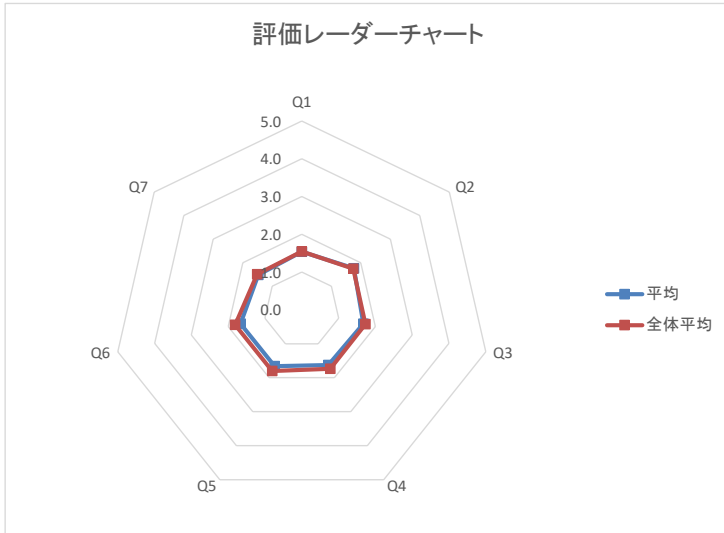
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.5	578 62.4%	248 26.8%	62 6.7%	14 1.5%	14 1.5%	5 0.5%	921 99.4%	6 0.6%	0.875
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.8	511 55.1%	243 26.2%	98 10.6%	34 3.7%	22 2.4%	15 1.6%	923 99.6%	4 0.4%	1.108
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.7	527 56.9%	253 27.3%	87 9.4%	20 2.2%	28 3.0%	4 0.4%	919 99.1%	8 0.9%	0.997
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.6	561 60.5%	230 24.8%	83 9.0%	22 2.4%	25 2.7%	3 0.3%	924 99.7%	3 0.3%	0.973
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.7	539 58.1%	244 26.3%	82 8.8%	26 2.8%	19 2.0%	9 1.0%	919 99.1%	8 0.9%	1.009
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.7	531 57.3%	248 26.8%	94 10.1%	29 3.1%	18 1.9%	4 0.4%	924 99.7%	3 0.3%	0.967
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.5	630 68.0%	192 20.7%	59 6.4%	26 2.8%	9 1.0%	3 0.3%	919 99.1%	8 0.9%	0.855

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.7	486 52.4%	294 31.7%	92 9.9%	33 3.6%	9 1.0%	3 0.3%	917 98.9%	10 1.1%	0.904
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.6	622 67.1%	176 19.0%	71 7.7%	17 1.8%	14 1.5%	21 2.3%	921 99.4%	6 0.6%	1.072
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。	4.3	35 3.8%	56 6.0%	141 15.2%	234 25.2%	269 29.0%	191 20.6%	926 99.9%	1 0.1%	1.324

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	5.2	336 36.2%	231 24.9%	208 22.4%	53 5.7%	20 2.2%	71 7.7%	919 99.1%	8 0.9%	1.461
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	509 54.9%	274 29.6%	91 9.8%	18 1.9%	9 1.0%	22 2.4%	923 99.6%	4 0.4%	1.056
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.5	344 37.1%	213 23.0%	185 20.0%	51 5.5%	26 2.8%	99 10.7%	918 99.0%	9 1.0%	1.605
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.2	354 38.2%	267 28.8%	179 19.3%	40 4.3%	17 1.8%	64 6.9%	921 99.4%	6 0.6%	1.407
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.7	274 29.6%	203 21.9%	230 24.8%	60 6.5%	33 3.6%	125 13.5%	925 99.8%	2 0.2%	1.661
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.4	320 34.5%	253 27.3%	194 20.9%	38 4.1%	23 2.5%	94 10.1%	922 99.5%	5 0.5%	1.548



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	現代人間学部共通科目		
履修者数	423	全科目数	7
回答者数	212	実施科目数	6

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	0	0	0
	国際日本文化学科	0	0	0	1	50.0%
生活福祉文化学部				0		0
心理学部				0		0
				0.0%		0.0%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	49	0	2		51
		46.7%	0.0%	25.0%		44.0%
	心理学科	94	0	1		95
	58.0%	0.0%	9.1%		50.5%	
	こども教育学科	64	0	1		65
		61.0%	0.0%	50.0%		56.5%
科目等履修生, その他					0	0
合計	207	0	4	1	0	212
学年別回答率	55.6%	0.0%	18.2%	25.0%		50.1%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

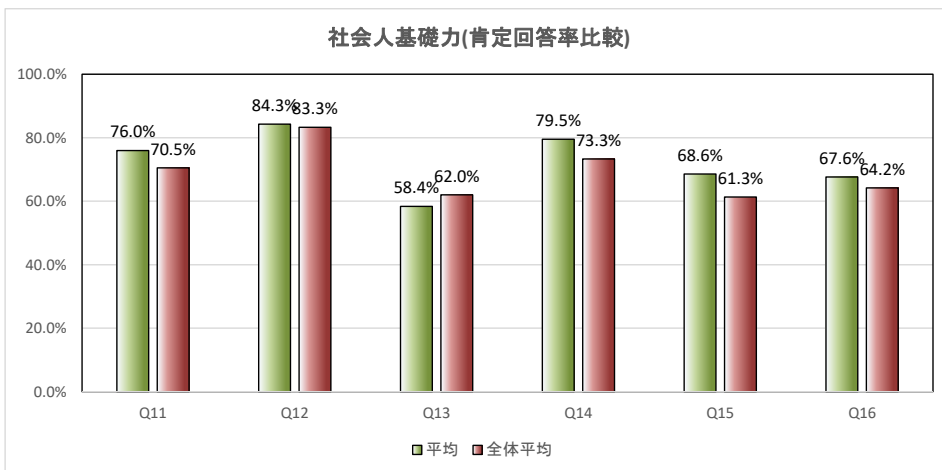
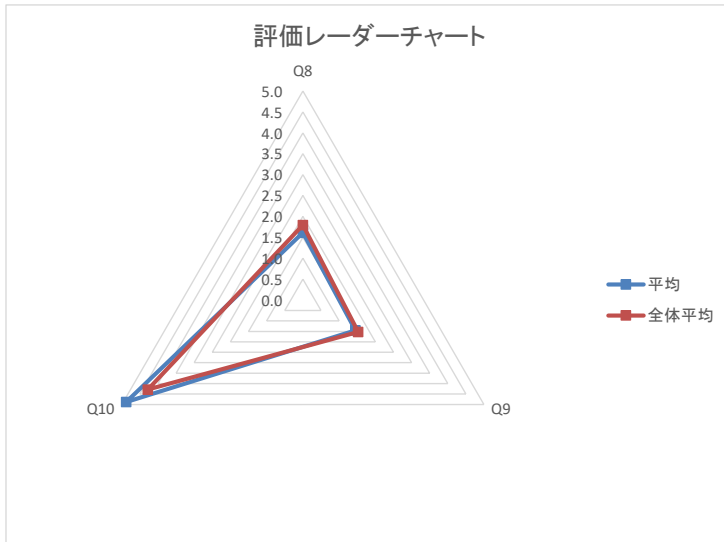
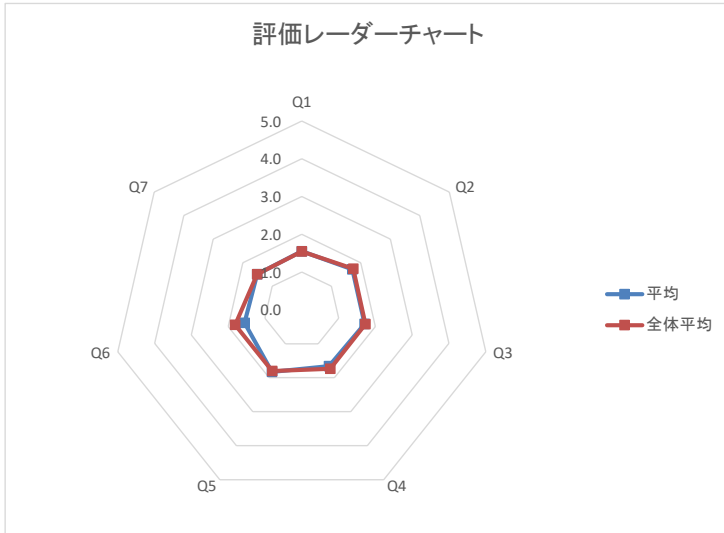
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.6	130	59	12	3	2	3	209	3	0.924
			61.3%	27.8%	5.7%	1.4%	0.9%	1.4%	98.6%	1.4%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	113	63	21	8	4	1	210	2	0.980
			53.3%	29.7%	9.9%	3.8%	1.9%	0.5%	99.1%	0.9%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.7	117	55	24	6	4	2	208	4	1.019
			55.2%	25.9%	11.3%	2.8%	1.9%	0.9%	98.1%	1.9%	
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.7	113	71	18	4	5	0	211	1	0.893
			53.3%	33.5%	8.5%	1.9%	2.4%	0.0%	99.5%	0.5%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.8	101	67	28	6	7	1	210	2	1.039
			47.6%	31.6%	13.2%	2.8%	3.3%	0.5%	99.1%	0.9%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.6	123	66	17	6	0	0	212	0	0.761
			58.0%	31.1%	8.0%	2.8%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.5	132	60	12	5	1	1	211	1	0.813
			62.3%	28.3%	5.7%	2.4%	0.5%	0.5%	99.5%	0.5%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.6	112	75	19	4	1	0	211	1	0.769
			52.8%	35.4%	9.0%	1.9%	0.5%	0.0%	99.5%	0.5%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	159	28	13	2	5	3	210	2	1.002
			75.0%	13.2%	6.1%	0.9%	2.4%	1.4%	99.1%	0.9%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	4.9	3	3	19	37	77	71	210	2	1.107
			1.4%	1.4%	9.0%	17.5%	36.3%	33.5%	99.1%	0.9%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.0	91	67	35	6	3	6	208	4	1.147
			42.9%	31.6%	16.5%	2.8%	1.4%	2.8%	98.1%	1.9%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.8	99	78	21	4	4	4	210	2	1.044
			46.7%	36.8%	9.9%	1.9%	1.9%	1.9%	99.1%	0.9%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.4	63	59	53	14	9	11	209	3	1.371
			29.7%	27.8%	25.0%	6.6%	4.2%	5.2%	98.6%	1.4%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	1.9	95	72	30	5	3	5	210	2	1.091
			44.8%	34.0%	14.2%	2.4%	1.4%	2.4%	99.1%	0.9%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.1	83	61	46	9	3	8	210	2	1.233
			39.2%	28.8%	21.7%	4.2%	1.4%	3.8%	99.1%	0.9%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.2	65	75	47	8	5	7	207	5	1.192
			30.7%	35.4%	22.2%	3.8%	2.4%	3.3%	97.6%	2.4%	



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	福祉生活デザイン学科専門教育科目
------	------------------

履修者数	2418	全科目数	145
回答者数	1090	実施科目数	140

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計 学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	2	0	2
				33.3%	0.0%	25.0%
	国際日本文化学科	0	2	2	4	8
			40.0%	100.0%	133.3%	57.1%
生活福祉文化学部					41	41
					22.0%	22.0%
心理学部					5	5
					19.2%	19.2%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	325	317	233		875
		70.8%	43.5%	43.1%		50.6%
	心理学科	37	41	54		132
		68.5%	26.1%	36.7%		36.9%
	こども教育学科	0	17	10		27
			20.7%	62.5%		27.6%
科目等履修生, その他					0	0
合計	362	377	301	50	0	1090
学年別回答率	70.6%	38.8%	42.3%	22.5%		45.1%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

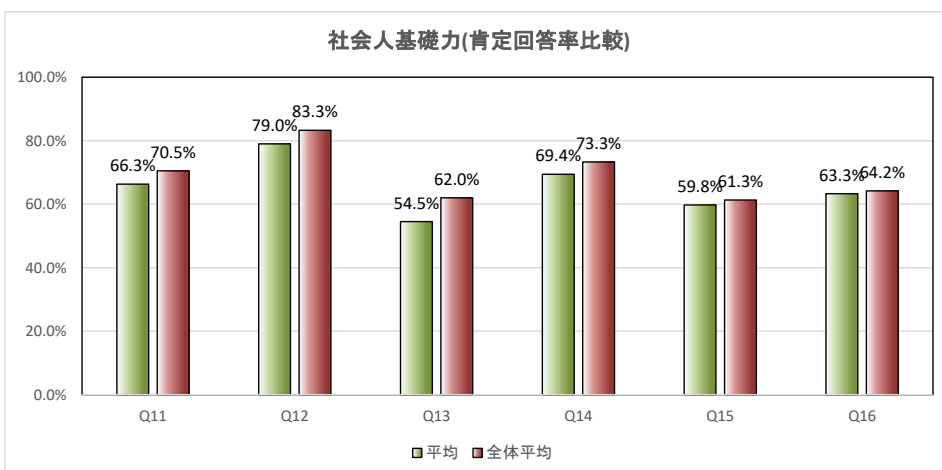
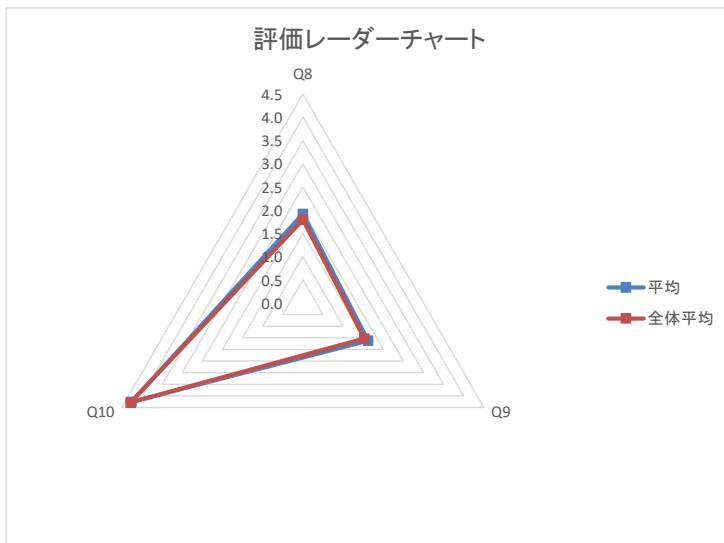
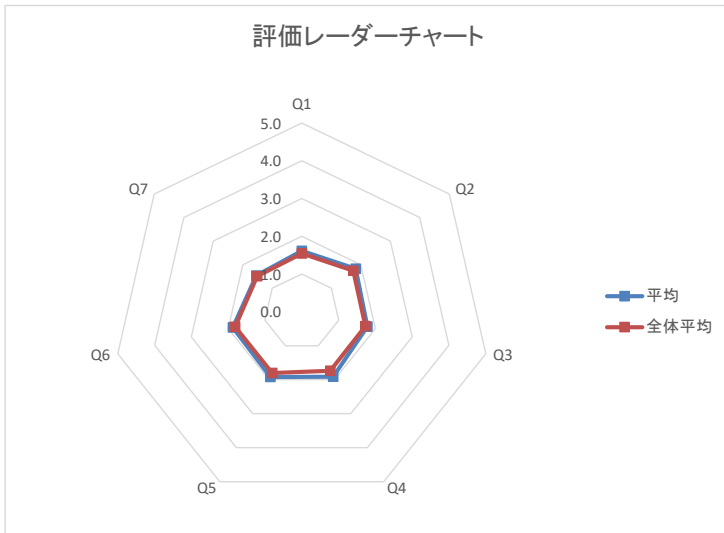
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.6	623	315	117	11	13	6	1085	5	0.877
			57.2%	28.9%	10.7%	1.0%	1.2%	0.6%	99.5%	0.5%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.8	563	291	139	44	36	10	1083	7	1.108
			51.7%	26.7%	12.8%	4.0%	3.3%	0.9%	99.4%	0.6%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.8	567	298	154	31	26	9	1085	5	1.039
			52.0%	27.3%	14.1%	2.8%	2.4%	0.8%	99.5%	0.5%	
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.9	555	254	157	57	56	6	1085	5	1.189
			50.9%	23.3%	14.4%	5.2%	5.1%	0.6%	99.5%	0.5%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.9	503	319	158	49	43	8	1080	10	1.125
			46.1%	29.3%	14.5%	4.5%	3.9%	0.7%	99.1%	0.9%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.9	529	312	154	40	46	5	1086	4	1.103
			48.5%	28.6%	14.1%	3.7%	4.2%	0.5%	99.6%	0.4%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.5	706	240	99	24	13	5	1087	3	0.894
			64.8%	22.0%	9.1%	2.2%	1.2%	0.5%	99.7%	0.3%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.9	476	357	154	61	30	6	1084	6	1.067
			43.7%	32.8%	14.1%	5.6%	2.8%	0.6%	99.4%	0.6%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.6	682	216	125	41	12	7	1083	7	0.978
			62.6%	19.8%	11.5%	3.8%	1.1%	0.6%	99.4%	0.6%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。	4.3	53	81	179	237	286	248	1084	6	1.420
			4.9%	7.4%	16.4%	21.7%	26.2%	22.8%	99.4%	0.6%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.0	401	316	261	33	39	31	1081	9	1.223
			36.8%	29.0%	23.9%	3.0%	3.6%	2.8%	99.2%	0.8%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.9	519	339	163	20	22	23	1086	4	1.097
			47.6%	31.1%	15.0%	1.8%	2.0%	2.1%	99.6%	0.4%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.6	306	284	276	70	62	84	1082	8	1.488
			28.1%	26.1%	25.3%	6.4%	5.7%	7.7%	99.3%	0.7%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.2	395	357	217	36	39	39	1083	7	1.255
			36.2%	32.8%	19.9%	3.3%	3.6%	3.6%	99.4%	0.6%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.4	359	290	277	52	56	52	1086	4	1.369
			32.9%	26.6%	25.4%	4.8%	5.1%	4.8%	99.6%	0.4%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.3	362	323	257	46	44	50	1082	8	1.327
			33.2%	29.6%	23.6%	4.2%	4.0%	4.6%	99.3%	0.7%	



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	心理学科専門教育科目	※コンソーシアム京都科目含む	
履修者数	2749	全科目数	70
回答者数	1109	実施科目数	66

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計 学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	1	0	2	0	3 75.0%
	国際日本文化学科	1	0	0	0	1 50.0%
生活福祉文化学部					1	1 100.0%
心理学部					44	44 17.3%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	3	1	1		5 38.5%
	心理学科	546	317	192		1055 42.6%
	こども教育学科	0	0	0		0 0.0%
科目等履修生, その他					0	0
合計	551	318	195	45	0	1109 40.3%
学年別回答率	68.3%	30.5%	30.2%	17.6%		

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

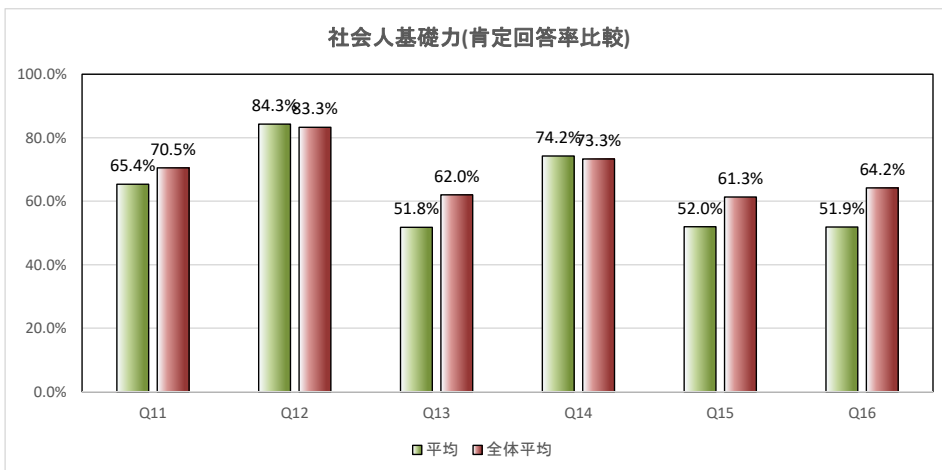
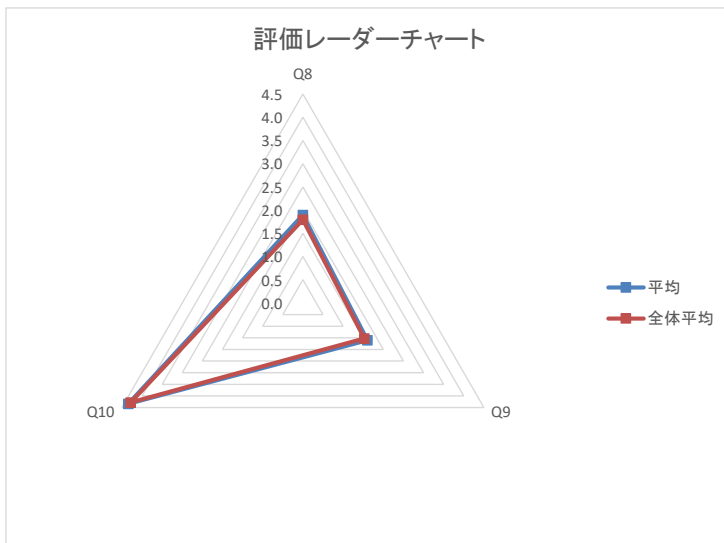
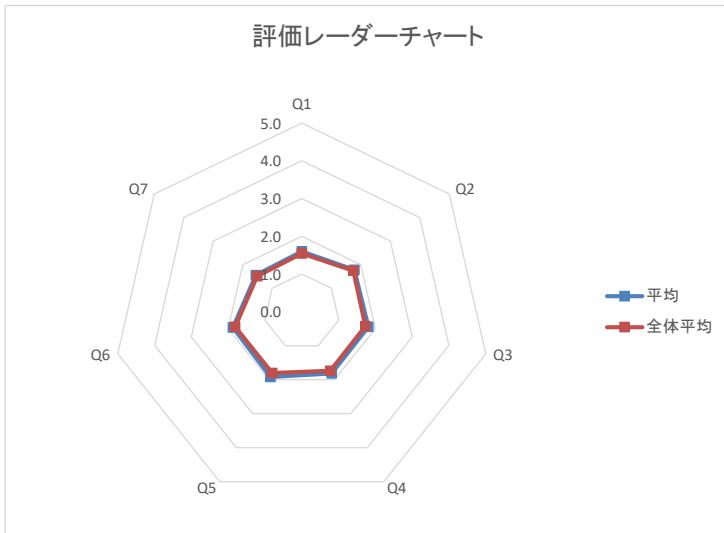
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.6	615	362	94	17	10	3	1101	8	0.818
			55.5%	32.6%	8.5%	1.5%	0.9%	0.3%	99.3%	0.7%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.8	531	384	116	45	20	6	1102	7	0.977
			47.9%	34.6%	10.5%	4.1%	1.8%	0.5%	99.4%	0.6%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.8	519	378	125	52	20	5	1099	10	0.988
			46.8%	34.1%	11.3%	4.7%	1.8%	0.5%	99.1%	0.9%	
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.8	523	371	125	44	34	1	1098	11	1.005
			47.2%	33.5%	11.3%	4.0%	3.1%	0.1%	99.0%	1.0%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.9	457	393	163	50	30	4	1097	12	1.023
			41.2%	35.4%	14.7%	4.5%	2.7%	0.4%	98.9%	1.1%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.9	494	376	139	56	31	2	1098	11	1.024
			44.5%	33.9%	12.5%	5.0%	2.8%	0.2%	99.0%	1.0%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.6	674	308	61	43	10	3	1099	10	0.870
			60.8%	27.8%	5.5%	3.9%	0.9%	0.3%	99.1%	0.9%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.9	418	469	147	44	19	3	1100	9	0.929
			37.7%	42.3%	13.3%	4.0%	1.7%	0.3%	99.2%	0.8%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.6	711	234	80	36	24	13	1098	11	1.040
			64.1%	21.1%	7.2%	3.2%	2.2%	1.2%	99.0%	1.0%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	4.3	29	81	161	246	365	208	1090	19	1.292
			2.6%	7.3%	14.5%	22.2%	32.9%	18.8%	98.3%	1.7%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	4.6	300	413	256	52	32	38	1091	18	1.201
			27.1%	37.2%	23.1%	4.7%	2.9%	3.4%	98.4%	1.6%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.8	484	439	124	18	16	14	1095	14	0.958
			43.6%	39.6%	11.2%	1.6%	1.4%	1.3%	98.7%	1.3%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.7	242	325	316	75	45	92	1095	14	1.435
			21.8%	29.3%	28.5%	6.8%	4.1%	8.3%	98.7%	1.3%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.1	364	449	202	33	23	24	1095	14	1.084
			32.8%	40.5%	18.2%	3.0%	2.1%	2.2%	98.7%	1.3%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.6	256	313	320	84	62	60	1095	14	1.364
			23.1%	28.2%	28.9%	7.6%	5.6%	5.4%	98.7%	1.3%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.6	240	327	316	88	52	70	1093	16	1.374
			21.6%	29.5%	28.5%	7.9%	4.7%	6.3%	98.6%	1.4%	



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	こども教育学科専門教育科目		
履修者数	2852	全科目数	124
回答者数	1429	実施科目数	112

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生 学科別回答率	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	0	0	0
	国際日本文化学科	0	0	0	0	0
生活福祉文化学部					4	4
心理学部					22.2%	22.2%
					22	22
					28.6%	28.6%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	1	0		1
	心理学科	0	50.0%	0		50.0%
	こども教育学科	547	559	296		1402
		74.5%	41.0%	45.1%		50.9%
科目等履修生, その他					0	0
合計		547	560	296	26	1429
学年別回答率		74.5%	41.1%	45.1%	26.3%	50.1%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

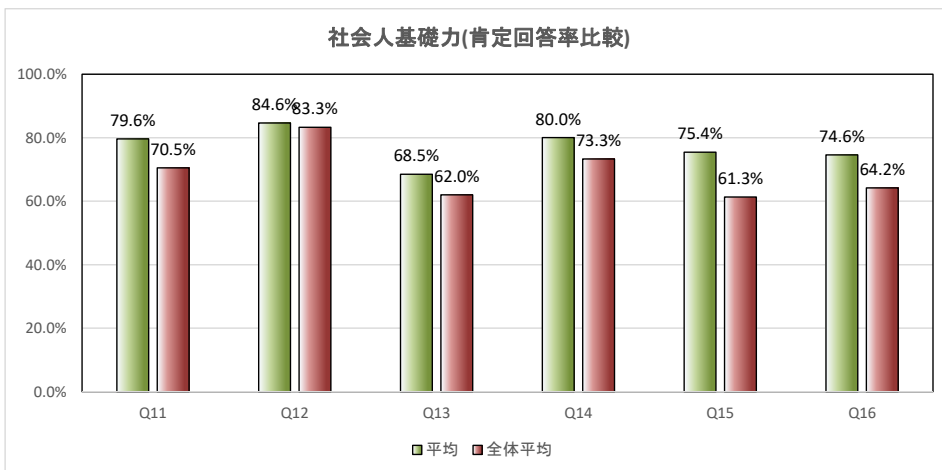
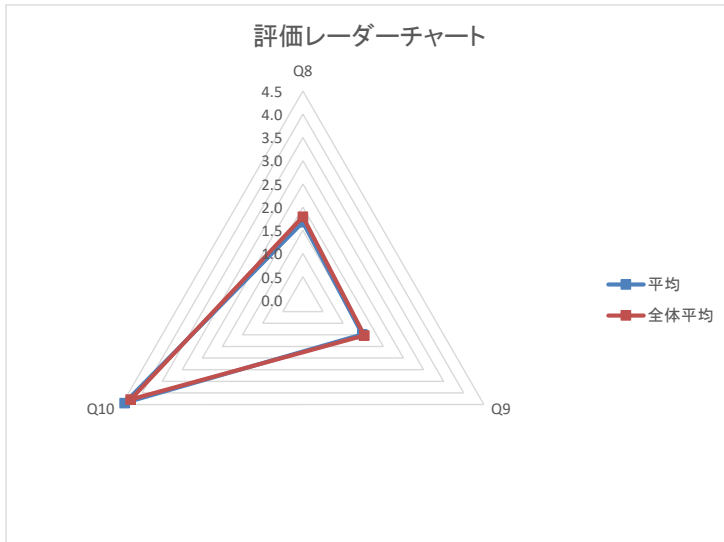
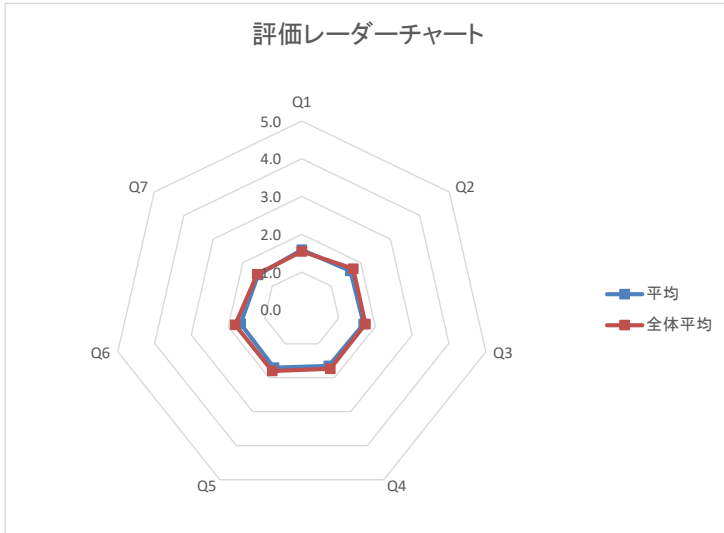
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.6	819	430	126	23	5	12	1415	14	0.855
			57.3%	30.1%	8.8%	1.6%	0.3%	0.8%	99.0%	1.0%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.6	813	402	133	34	23	10	1415	14	0.948
			56.9%	28.1%	9.3%	2.4%	1.6%	0.7%	99.0%	1.0%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.7	780	415	142	42	9	20	1408	21	0.979
			54.6%	29.0%	9.9%	2.9%	0.6%	1.4%	98.5%	1.5%	
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.7	830	362	132	46	37	1	1408	21	0.970
			58.1%	25.3%	9.2%	3.2%	2.6%	0.1%	98.5%	1.5%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.7	796	366	161	52	27	8	1410	19	1.001
			55.7%	25.6%	11.3%	3.6%	1.9%	0.6%	98.7%	1.3%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.7	802	391	153	40	24	5	1415	14	0.940
			56.1%	27.4%	10.7%	2.8%	1.7%	0.3%	99.0%	1.0%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.5	925	354	95	25	10	4	1413	16	0.795
			64.7%	24.8%	6.6%	1.7%	0.7%	0.3%	98.9%	1.1%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.7	743	469	140	36	18	5	1411	18	0.892
			52.0%	32.8%	9.8%	2.5%	1.3%	0.3%	98.7%	1.3%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	1026	234	85	20	11	33	1409	20	1.009
			71.8%	16.4%	5.9%	1.4%	0.8%	2.3%	98.6%	1.4%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	4.4	43	91	199	325	372	373	1403	26	1.349
			3.0%	6.4%	13.9%	22.7%	26.0%	26.1%	98.2%	1.8%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.4	659	459	196	29	31	30	1404	25	1.102
			46.1%	32.1%	13.7%	2.0%	2.2%	2.1%	98.3%	1.7%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	758	433	171	16	20	9	1407	22	0.911
			53.0%	30.3%	12.0%	1.1%	1.4%	0.6%	98.5%	1.5%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.1	533	428	297	49	38	58	1403	26	1.271
			37.3%	30.0%	20.8%	3.4%	2.7%	4.1%	98.2%	1.8%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	1.8	650	473	212	33	21	14	1403	26	0.985
			45.5%	33.1%	14.8%	2.3%	1.5%	1.0%	98.2%	1.8%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	1.9	612	445	250	34	23	37	1401	28	1.132
			42.8%	31.1%	17.5%	2.4%	1.6%	2.6%	98.0%	2.0%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.0	600	445	264	34	26	32	1401	28	1.116
			42.0%	31.1%	18.5%	2.4%	1.8%	2.2%	98.0%	2.0%	



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 生活福祉文化学部専門教育科目

履修者数	148	全科目数	33
回答者数	21	実施科目数	23

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計 学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	0	1	100.0%
	国際日本文化学科	0	0	0	1	100.0%
生活福祉文化学部					19	13.1%
心理学部					0	0.0%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0	0	0	0
	心理学科	0	0	0	0	0
	こども教育学科	0	0	0	0	0
科目等履修生, その他					0	0
合計					21	14.1%
学年別回答率					0	0
合計					21	14.2%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

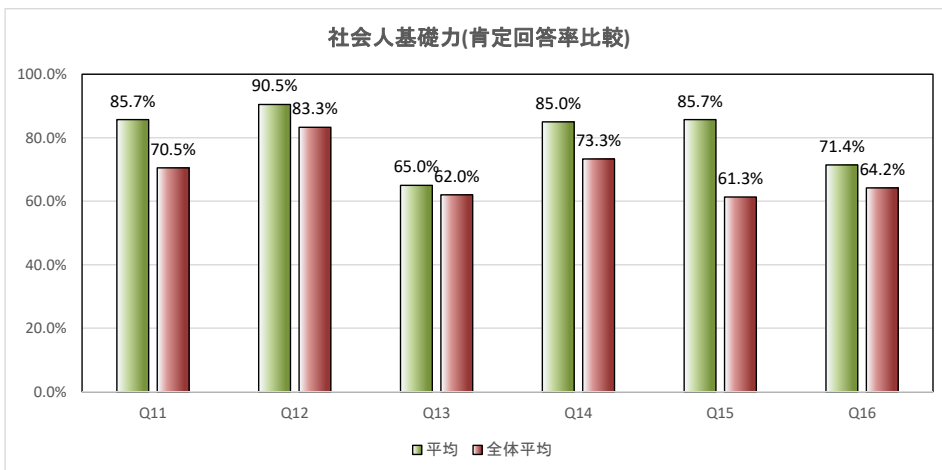
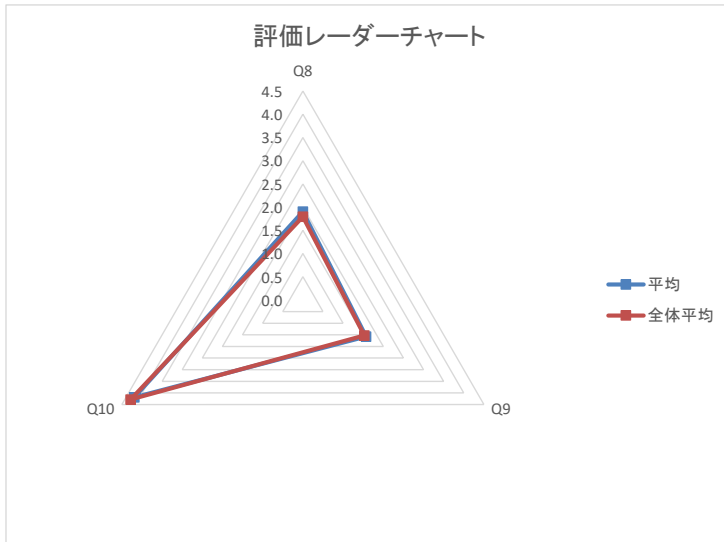
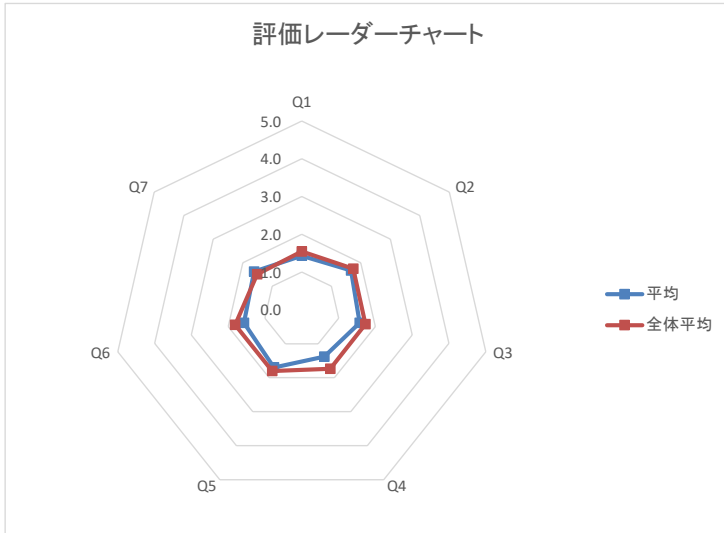
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.4	12	9	0	0	0	0	21	0	0.507
			57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	10	8	3	0	0	0	21	0	0.730
			47.6%	38.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.6	11	8	2	0	0	0	21	0	0.676
			52.4%	38.1%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.4	15	5	0	1	0	0	21	0	0.740
			71.4%	23.8%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.7	10	6	4	0	0	0	20	1	0.801
			47.6%	28.6%	19.0%	0.0%	0.0%	0.0%	95.2%	4.8%	
Q6	(6) 授業は興味関心を持てる内容であった。	1.6	10	10	1	0	0	0	21	0	0.598
			47.6%	47.6%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.6	11	8	1	1	0	0	21	0	0.805
			52.4%	38.1%	4.8%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.9	5	13	3	0	0	0	21	0	0.625
			23.8%	61.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.6	12	6	3	0	0	0	21	0	0.746
			57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	4.2	2	2	3	2	7	5	21	0	1.662
			9.5%	9.5%	14.3%	9.5%	33.3%	23.8%	100.0%	0.0%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	1.7	8	10	2	1	0	0	21	0	0.814
			38.1%	47.6%	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	9	10	2	0	0	0	21	0	0.658
			42.9%	47.6%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.4	6	7	4	1	1	1	20	1	1.387
			28.6%	33.3%	19.0%	4.8%	4.8%	4.8%	95.2%	4.8%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.0	7	10	1	1	1	0	20	1	1.050
			33.3%	47.6%	4.8%	4.8%	4.8%	0.0%	95.2%	4.8%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	1.7	10	8	3	0	0	0	21	0	0.730
			47.6%	38.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.4	3	12	3	2	0	1	21	0	1.161
			14.3%	57.1%	14.3%	9.5%	0.0%	4.8%	100.0%	0.0%	



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	心理学部専門教育科目		
履修者数	249	全科目数	57
回答者数	33	実施科目数	45

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	0	0	0
	国際日本文化学科	0	0	0	0	0
生活福祉文化学部					0	0
心理学部					33	33
					13.3%	13.3%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0	0		0
	心理学科	0	0	0		0
	こども教育学科	0	0	0		0
科目等履修生, その他					0	0
合計	0	0	0	33	0	33
学年別回答率				13.2%		13.3%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

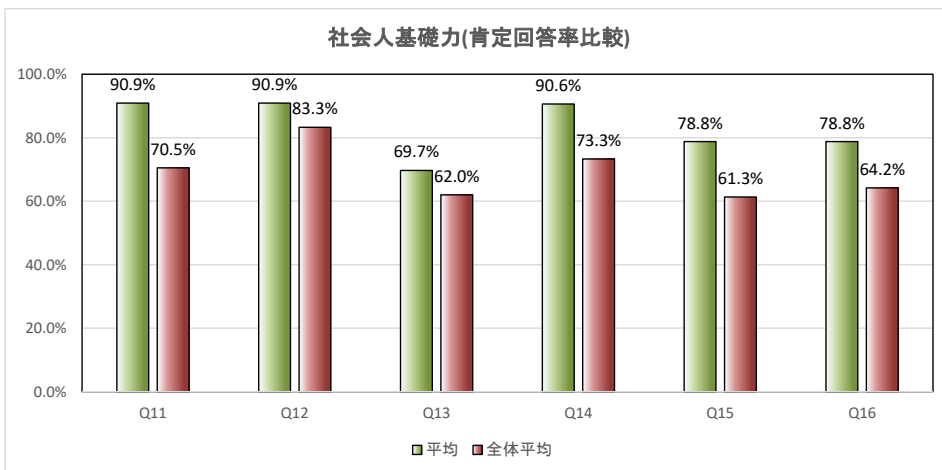
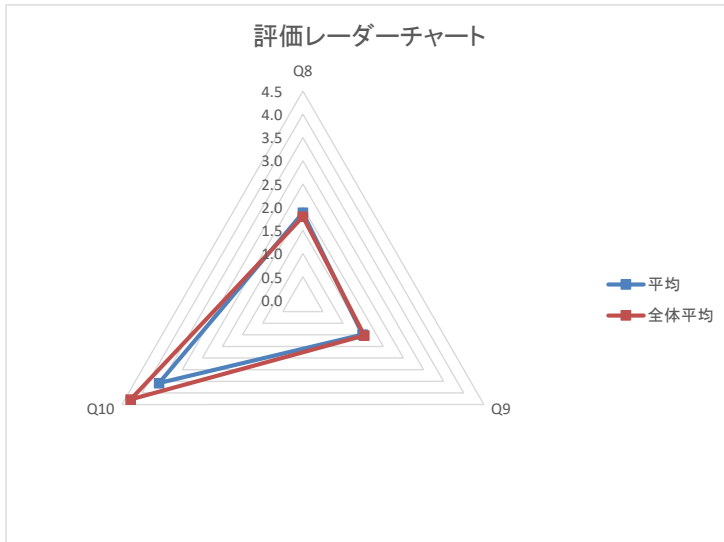
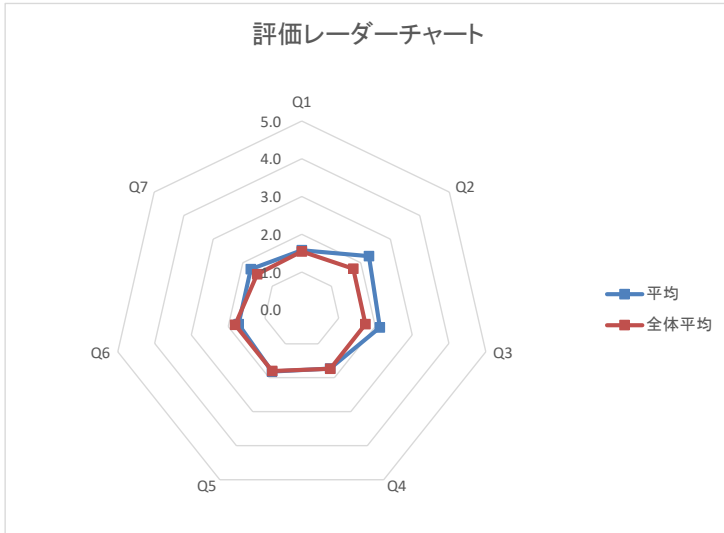
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.6	19	12	1	0	0	1	33	0	0.969
			57.6%	36.4%	3.0%	0.0%	0.0%	3.0%	100.0%	0.0%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	2.3	14	10	4	0	1	4	33	0	1.663
			42.4%	30.3%	12.1%	0.0%	3.0%	12.1%	100.0%	0.0%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	2.1	15	11	3	0	0	4	33	0	1.596
			45.5%	33.3%	9.1%	0.0%	0.0%	12.1%	100.0%	0.0%	
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.7	20	8	1	3	0	1	33	0	1.206
			60.6%	24.2%	3.0%	9.1%	0.0%	3.0%	100.0%	0.0%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	1.8	20	8	1	0	3	1	33	0	1.402
			60.6%	24.2%	3.0%	0.0%	9.1%	3.0%	100.0%	0.0%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.7	19	9	2	0	0	2	32	1	1.276
			57.6%	27.3%	6.1%	0.0%	0.0%	6.1%	97.0%	3.0%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.7	16	13	3	0	0	1	33	0	1.008
			48.5%	39.4%	9.1%	0.0%	0.0%	3.0%	100.0%	0.0%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.9	16	12	2	1	0	2	33	0	1.293
			48.5%	36.4%	6.1%	3.0%	0.0%	6.1%	100.0%	0.0%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	25	5	1	0	1	1	33	0	1.149
			75.8%	15.2%	3.0%	0.0%	3.0%	3.0%	100.0%	0.0%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	3.6	6	3	7	6	5	6	33	0	1.733
			18.2%	9.1%	21.2%	18.2%	15.2%	18.2%	100.0%	0.0%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	1.6	18	12	2	0	0	1	33	0	0.994
			54.5%	36.4%	6.1%	0.0%	0.0%	3.0%	100.0%	0.0%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	16	14	2	0	0	1	33	0	0.984
			48.5%	42.4%	6.1%	0.0%	0.0%	3.0%	100.0%	0.0%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	1.9	15	8	9	0	0	1	33	0	1.116
			45.5%	24.2%	27.3%	0.0%	0.0%	3.0%	100.0%	0.0%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	1.6	19	10	2	0	0	1	32	1	1.012
			57.6%	30.3%	6.1%	0.0%	0.0%	3.0%	97.0%	3.0%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	1.9	16	10	4	1	0	2	33	0	1.321
			48.5%	30.3%	12.1%	3.0%	0.0%	6.1%	100.0%	0.0%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	1.8	17	9	5	1	0	1	33	0	1.131
			51.5%	27.3%	15.2%	3.0%	0.0%	3.0%	100.0%	0.0%	



2019年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	資格科目等		
履修者数	899	全科目数	60
回答者数	362	実施科目数	49

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計 学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	6 66.7%	30 33.3%	27 60.0%	4 33.3%	67 41.6%
	国際日本文化学科	35 62.5%	96 40.9%	33 38.4%	12 25.5%	176 41.4%
生活福祉文化学部				2 7.1%	2 7.1%	
心理学部				37 46.3%	37 46.3%	
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	2 40.0%	21 31.8%	11 32.4%		34 32.4%
	心理学科	26 52.0%	5 50.0%	13 44.8%		44 49.4%
	こども教育学科	0 0.0%	0	2 22.2%		2 18.2%
科目等履修生, その他					0 0	
合計	69	152	86	55	0	362
学年別回答率	56.6%	37.9%	42.4%	31.6%		40.3%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

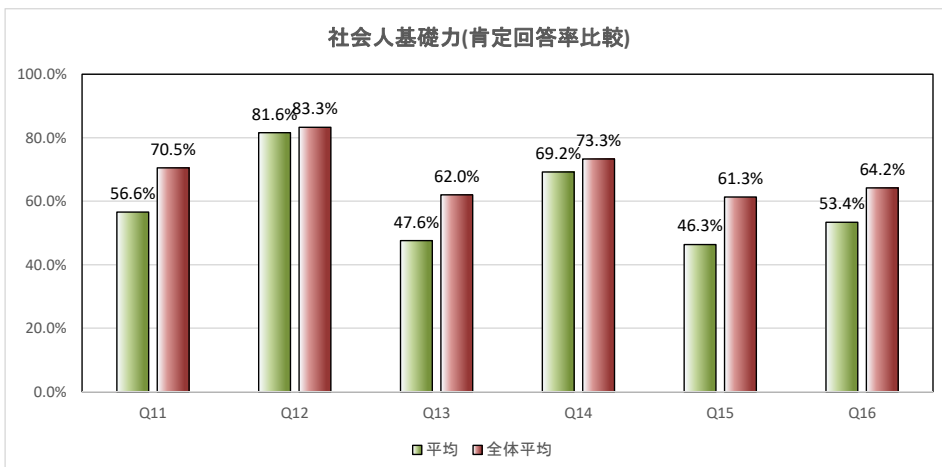
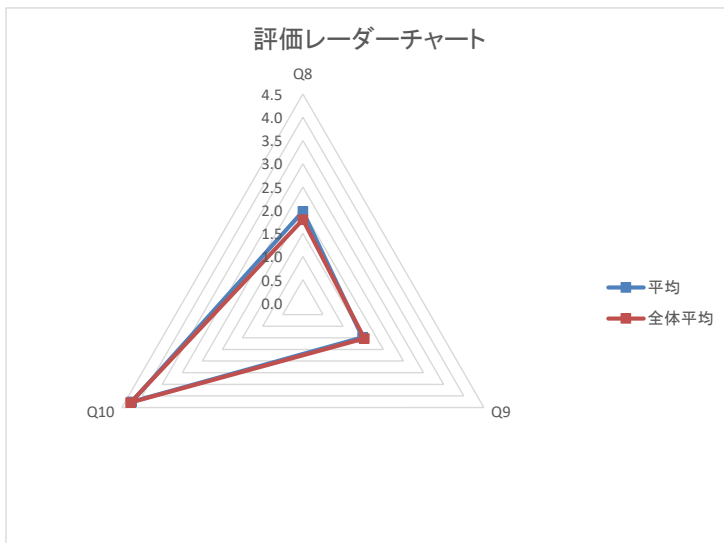
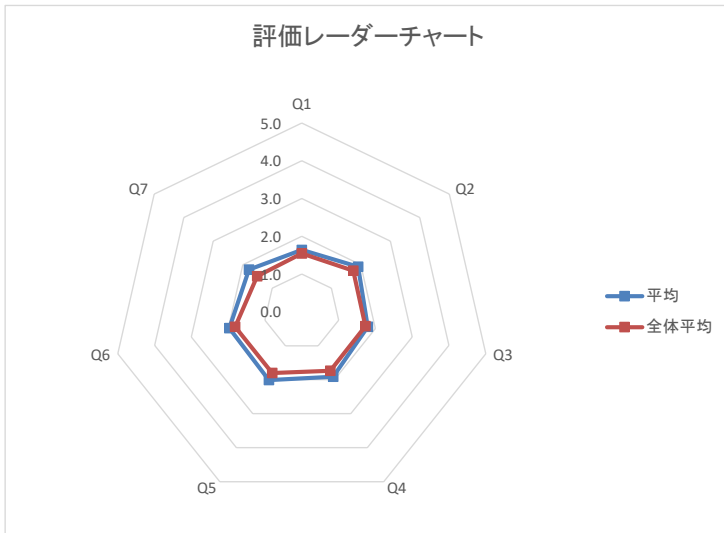
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった。	1.6	180 49.7%	137 37.8%	33 9.1%	4 1.1%	2 0.6%	1 0.3%	357 98.6%	5 1.4%	0.780
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.9	162 44.8%	108 29.8%	54 14.9%	24 6.6%	8 2.2%	1 0.3%	357 98.6%	5 1.4%	1.056
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.8	167 46.1%	120 33.1%	48 13.3%	16 4.4%	3 0.8%	1 0.3%	355 98.1%	7 1.9%	0.931
Q4	(4) 教員の話し方は、わかりやすかった。	1.9	157 43.4%	117 32.3%	52 14.4%	17 4.7%	12 3.3%	1 0.3%	356 98.3%	6 1.7%	1.059
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	2.0	150 41.4%	105 29.0%	64 17.7%	19 5.2%	12 3.3%	4 1.1%	354 97.8%	8 2.2%	1.144
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	2.0	140 38.7%	130 35.9%	55 15.2%	20 5.5%	10 2.8%	1 0.3%	356 98.3%	6 1.7%	1.036
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	1.8	180 49.7%	108 29.8%	38 10.5%	20 5.5%	8 2.2%	1 0.3%	355 98.1%	7 1.9%	1.023

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	2.0	117 32.3%	161 44.5%	49 13.5%	23 6.4%	3 0.8%	1 0.3%	354 97.8%	8 2.2%	0.923
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	248 68.5%	67 18.5%	27 7.5%	7 1.9%	6 1.7%	1 0.3%	356 98.3%	6 1.7%	0.883
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	4.3	13 3.6%	28 7.7%	53 14.6%	83 22.9%	121 33.4%	59 16.3%	357 98.6%	5 1.4%	1.315

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.8	101 27.9%	101 27.9%	103 28.5%	24 6.6%	14 3.9%	14 3.9%	357 98.6%	5 1.4%	1.286
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.8	163 45.0%	125 34.5%	51 14.1%	3 0.8%	4 1.1%	7 1.9%	353 97.5%	9 2.5%	1.014
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.7	87 24.0%	81 22.4%	107 29.6%	31 8.6%	19 5.2%	28 7.7%	353 97.5%	9 2.5%	1.468
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.1	127 35.1%	118 32.6%	71 19.6%	19 5.2%	10 2.8%	9 2.5%	354 97.8%	8 2.2%	1.192
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.7	82 22.7%	83 22.9%	109 30.1%	34 9.4%	24 6.6%	24 6.6%	356 98.3%	6 1.7%	1.437
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.6	87 24.0%	103 28.5%	106 29.3%	23 6.4%	15 4.1%	22 6.1%	356 98.3%	6 1.7%	1.365



II 2019年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

「大学院生による教育評価アンケート」は、大学院における教育内容の改善及び教育プログラムの充実に役立てることを目的に実施している。

2. 実施概要

1) 実施期間

2019年12月13日(金)～2020年1月31日(金)

2) 調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

3) 在籍者数・回収数・回収率

研究科	専攻科	在籍者数 (名)	回答者数 (名)	回答率
人間文化研究科	応用英語専攻	2	2	100.0%
	人間文化専攻	1	1	100.0%
	生活福祉文化専攻	2	1	50.0%
	研究科計	5	4	80.0%
心理学研究科	発達・学校心理学専攻	2	1	50.0%
	臨床心理学専攻	19	9	47.4%
	心理学専攻	1	0	0.0%
	研究科計	21	15	45.5%
計		27	21	51.2%

4) 調査内容

調査項目については、FD委員会にて検討し、昨年度実施分と同じ調査項目で実施した。冒頭で、回答者の属性（学年・所属研究科（専攻））を尋ね、続いて以下の項目について尋ねた。設問は選択式10問、自由記述2問であった。

調査項目

(1) 評価項目

選択式

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
- ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである
- ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
- ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている

- ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている
- ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている
- ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
- ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている
- ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている
- ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

自由記述

- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください。
- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください。

(2) 回答形式

選択式設問①～⑩については、以下の5件法で回答させた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない

5) 実施手順

実施に当たっては、研究・情報推進課にてオンラインアンケートツール SurveyMonkey にアンケートを作成し、大学院生に回答を依頼するメールを送信した。

6) 結果の集計

研究・情報推進課にて集計し、集計結果シートを作成した。

7) 集計結果の配付と活用

集計結果は、FD 委員を通じて研究科に報告し各研究科における対応を依頼した。また、学内の学習環境の整備やキャリア指導についての設問もあるので、課長会において事務局の各部局に集計結果を報告した。

3. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

大学院全体のアンケート結果から、選択式設問においては、「Q1. 学位取得のための道筋が明確に示されている」および「Q9. 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」が共に4.3と最も高く、後者の設問 (Q9) に関しては前年度の3.8より0.5ポイント上回っている。研究科および専攻別では評価の差はあるものの、両項目ともに4ポイント以上の評価をマークしており、このことから、大学院全体の学習環境が前年度よりも充実していると大学院生が感じている様子が窺える。

一方、「Q6. 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている」、「Q7. オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている」は両設問とも3.9、「Q2. 提示されたカリキュラムは納得のいくものである」、「Q5. 個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている」、「Q8. 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている」はいずれも3.8、「Q4. 提供される科目の授業内容が明確に示されている」は3.7となっているが、これらの項目に関しては研究科、専攻別において比較的差が見られた。特に、前年度との差がQ4及びQ6に関しては大きく見られ、Q4は前年度より0.5ポイント、Q6は0.4ポイント下回っており、Q8以外の他の項目に関してもわずかな差ではあるが、全体的に評価が前年度より下回っている傾向が見られた。このことから、本大学院のカリキュラム、指導内容および体制等に関して、研究科・専攻間および個々の大学院生の評価の差が見られ、また前年度からの評価の低下が生じていることが分かる。また、例年低い評価となっている「Q10. キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている」に関しても、3.2と昨年度に続き全項目の中でも最も低い評価となっている。

自由記述では「よかった点」として、研究科を超えて、専門的・及び幅広い知識を身につけることができたことや、教員の指導に対する肯定的な意見が挙げられており、本大学院の教育的内容に対し満足する様子が窺える。一方で、「改善すべき点」としては、一部の教育内容および指導体制に対し、授業内における課題等に関する指示の不明瞭さや各教員による指示の不統一性の指摘およびそれらに対する不満があげられていた。

これらの結果をふまえ、以下の2点を重点的課題としたい。1つは、研究科および専攻により評価に大きな差が見られた大学院の教育内容および指導体制に関する項目において、その要因を明らかにし、改善を図ることである。特に、前年度から大きく評価が低下した「Q4. 提供される科目の授業内容が明確に示されている」と「Q6. 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている」の項目に関しては、早急に改善すべきである。例えば、研究指導やオフィスアワーについては指導生の論文の進捗状況に合わせて、適宜判断しながら柔軟に対応していくことが必要とされる。一方で、授業内容の明示化については、各授業におけるロードマップを授業開始時のみならず授業期間内においても随時確認することにより、授業の到達目標をより明確にすることができる。2つ目は、今年度の課題として掲げられている「キャリア形成を視野に入れた指導を具現化する」という目標の達成度についてのアセスメントを改めて行い、各専攻における試みを整理した上で、今回の評価に直接つながらなかった要因を分析することである。一方で、修士号を取得した後にどのようなキャリアプランを描くのかは大学院生自身が自分で切り開いていかないといけない部分も大きくあるため、指導教員による指導と大学院生の自立のバランスを保つことが必要であろう。

以上の2点をまずは課題とし、本学の教育環境の充実を図り、より魅力的な大学院を構築していきたい。

文責：杉村 美奈（国際言語文化学部 英語英文学科 FD委員）

■専攻

回答者数 13

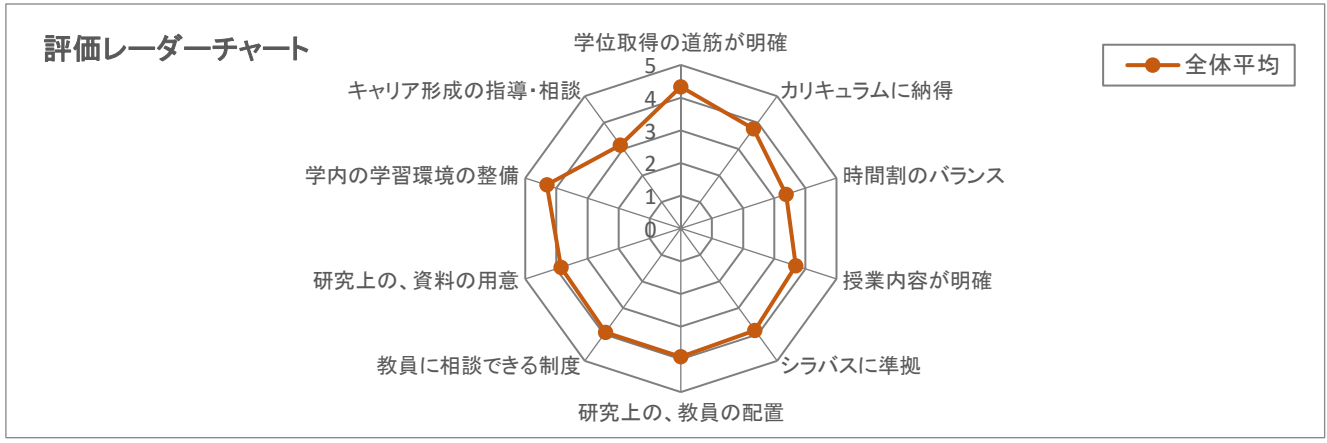
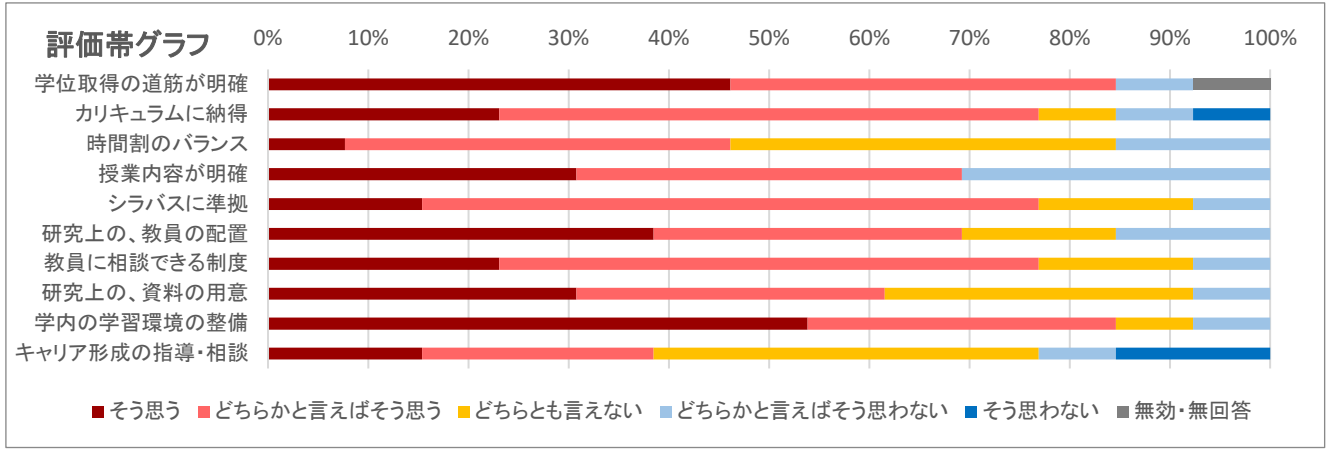
応用英語専攻	生活福祉文化専攻	人間文化専攻	発達・学校心理学専攻	臨床心理学専攻	心理学専攻	科目等履修生	計
2 15.4%	1 7.7%	1 7.7%	1 7.7%	8 61.5%	0 0.0%	0 0.0%	13

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
2 15.4%	2 15.4%	5 38.5%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.3	6 50.0%	5 41.7%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	12	1	0.850
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	3 23.1%	7 53.8%	1 7.7%	1 7.7%	1 7.7%	13	0	1.120
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.4	1 7.7%	5 38.5%	5 38.5%	2 15.4%	0 0.0%	13	0	0.836
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	3.7	4 30.8%	5 38.5%	0 0.0%	4 30.8%	0 0.0%	13	0	1.202
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	3.8	2 15.4%	8 61.5%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.769
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	5 38.5%	4 30.8%	2 15.4%	2 15.4%	0 0.0%	13	0	1.071
Q7	オフィサー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	3.9	3 23.1%	7 53.8%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.828
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.8	4 30.8%	4 30.8%	4 30.8%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.948
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.3	7 53.8%	4 30.8%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.910
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.2	2 15.4%	3 23.1%	5 38.5%	1 7.7%	2 15.4%	13	0	1.231



■研究科

回答者数	4
------	---

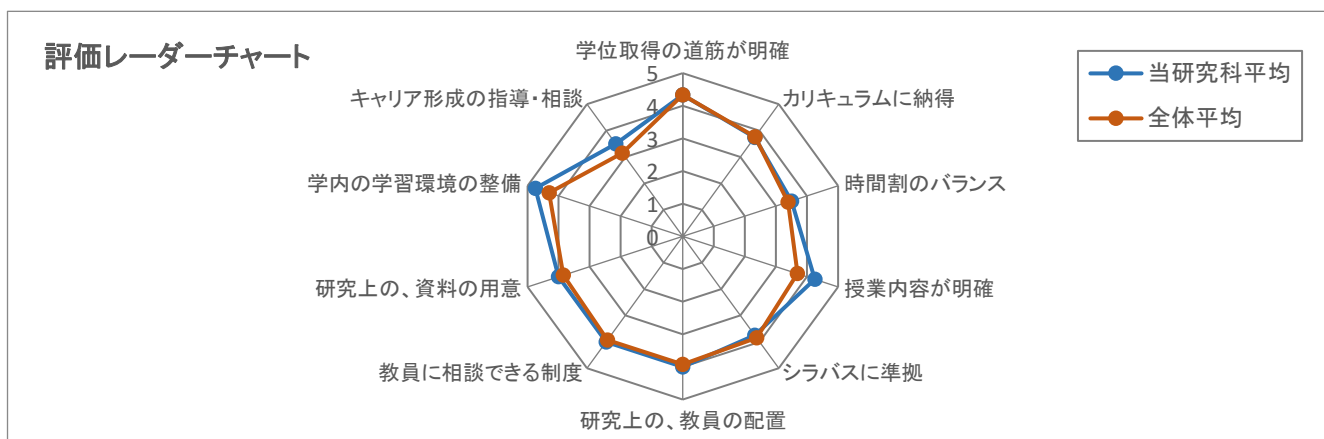
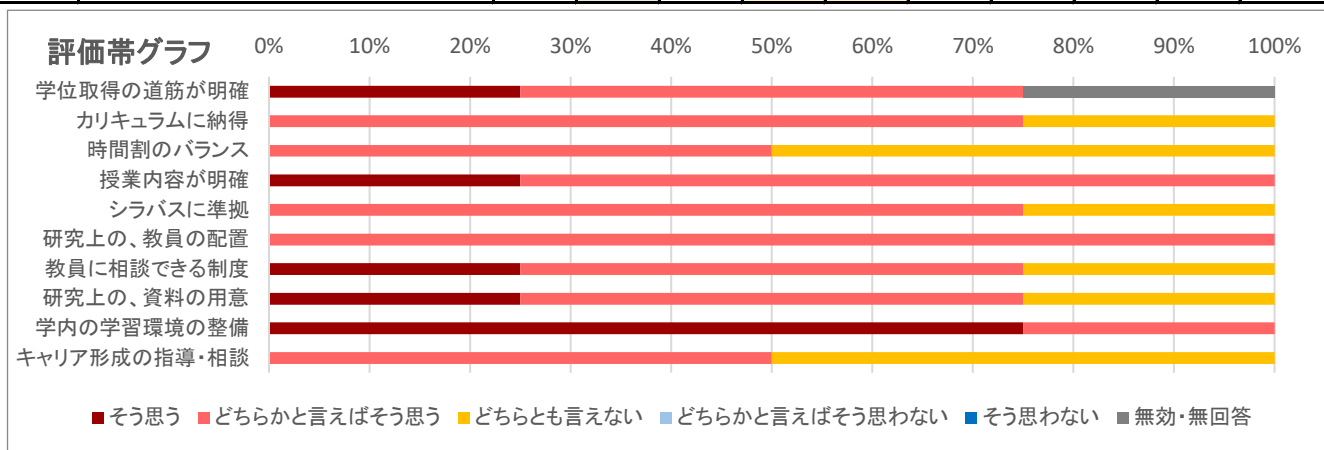
人間文化研究科

■学年

修士課程 (M1)	修士課程 (M2)	博士前期課程 (M1)	博士前期課程 (M2)	博士後期課程 (D1)	博士後期課程 (D2)	博士後期課程 (D3)	計
2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当研究科平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.3	4.3	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	1	0.471
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	3.8	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.433
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.4	3.5	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.500
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	3.7	4.3	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.433
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	3.8	3.8	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.433
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	4.0	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.000
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	3.9	4.0	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.707
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.8	4.0	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.707
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.3	4.8	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.433
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.2	3.5	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	4	0	0.500



■研究科

回答者数 9

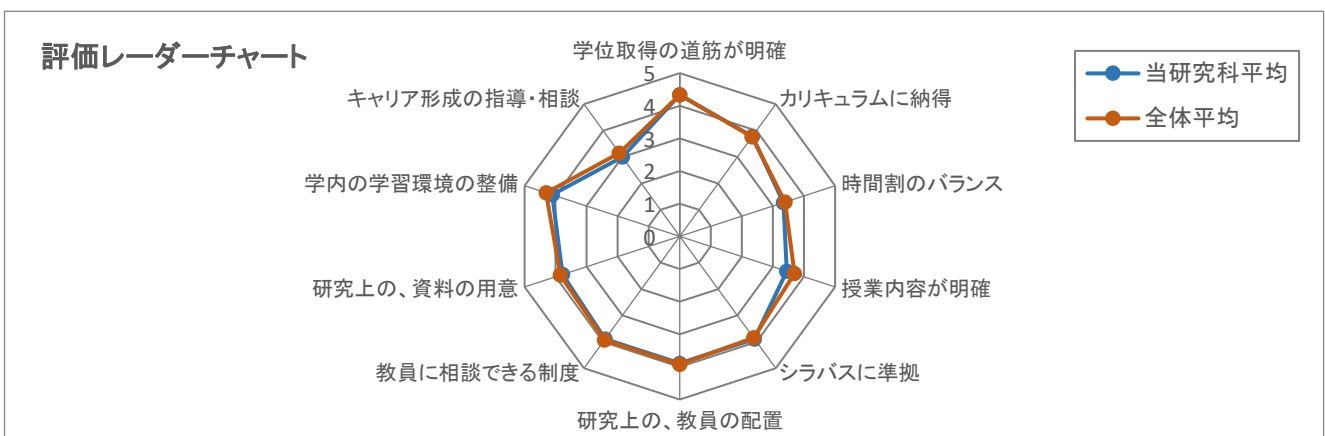
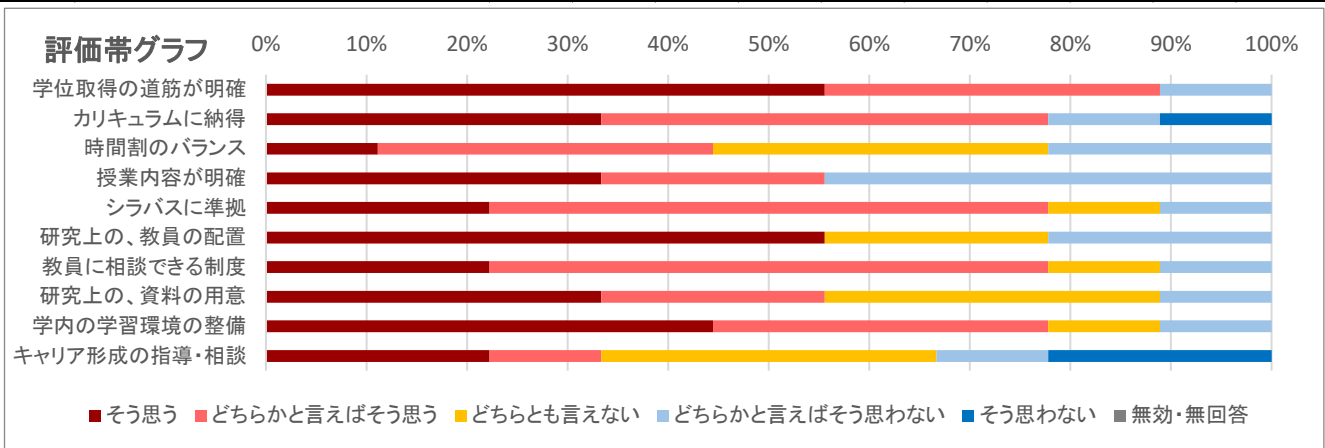
心理学研究科

■学年

修士課程 (M1)	修士課程 (M2)	博士前期課程 (M1)	博士前期課程 (M2)	博士後期課程 (D1)	博士後期課程 (D2)	博士後期課程 (D3)	計
0	0.0%	0	0.0%	5	55.6%	4	44.4%
0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
							9

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当研究科平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.3	4.3	5 55.6%	3 33.3%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	9	0	0.943
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.8	3.8	3 33.3%	4 44.4%	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	9	0	1.315
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.4	3.3	1 11.1%	3 33.3%	3 33.3%	2 22.2%	0 0.0%	9	0	0.943
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	3.7	3.4	3 33.3%	2 22.2%	0 0.0%	4 44.4%	0 0.0%	9	0	1.343
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	3.8	3.9	2 22.2%	5 55.6%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	9	0	0.875
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	3.9	3.9	5 55.6%	0 0.0%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	9	0	1.286
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	3.9	3.9	2 22.2%	5 55.6%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	9	0	0.875
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.8	3.8	3 33.3%	2 22.2%	3 33.3%	1 11.1%	0 0.0%	9	0	1.030
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.3	4.1	4 44.4%	3 33.3%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	9	0	0.994
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.2	3.0	2 22.2%	1 11.1%	3 33.3%	1 11.1%	2 22.2%	9	0	1.414



Ⅲ 2019 年度「オープンクラス」実施報告

1.実施概要

オープンクラスは、教員が互いの授業を公開し授業方法に関する知識や技能を共有することで、個々の教員の授業をより質の高いものとするを目的としている。本学では 2011 年度より実施している。

2019 年度前期は、期間中は原則として全ての学部開講授業を本学教職員及び学生を対象に公開する「オープンクラス・ウィーク」形式、後期は選定した一部の授業を公開する形式で実施した。後期にこの形式を採用したのは、昨年度までに参観した教員から「オープンクラス・ウィーク」形式は一授業あたりの参観者数が少ないため、前期、後期ともに、授業参観者から提出されたコメントシートには、参観した授業についての感想や助言が寄せられ、その内容は授業担当教員へ伝えられた。

2019 年度「オープンクラス」実施状況

オープンクラス・ウィーク実施期間	参観者コメントシート提出数	授業担当者コメントシート提出者数
前期:7月1日(月)～7月12日(金)	42	16
後期:12月11日(水)～12月20日(金)	14	-

2019 年度後期「オープンクラス」授業科目一覧

日付(曜日)	講時	授業名	担当教員
12月11日(水)	3	年中行事論	国際日本文化学科 堀 勝博 教授
12月12日(木)	3	行動科学概論	心理学科 後藤 伸彦 講師
12月16日(月)	4	教育の方法と技術	こども教育学科 神月 紀輔 教授
12月17日(火)	1	現代社会と家庭経営	福祉生活デザイン学科 青木 加奈子 講師
	1	幼児理解の理論と方法	こども教育学科 石井 浩子 教授
	1	教育経営論	こども教育学科 河佐 英俊 准教授
	2	特別支援教育基礎理論	こども教育学科 江川 正一 准教授
	2	教育と社会	こども教育学科 田中 裕喜 教授
	2	こどもの保健Ⅱ	こども教育学科 萩原 暢子 教授
	3	地域福祉論Ⅱ	福祉生活デザイン学科 酒井久美子 准教授
12月18日(水)	2	音楽科指導法	こども教育学科 古庵 晶子准教授
	3	日本年中行事論	国際日本文化学科 堀 勝博 教授
12月19日(木)	1	介護概論	福祉生活デザイン学科 三好 明夫教授
	2	理科	こども教育学科 小川 博士 准教授
	2	肢体不自由者教育論Ⅰ*	こども教育学科 太田 容次 准教授
	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ	福祉生活デザイン学科 三好 明夫教授
12月20日(金)	1	Persuasive Communication	英語英文学科 小山 哲春 教授

	3	体育科指導法	こども教育学科 住本 純 講師
	3	社会	こども教育学科 大西 慎也 准教授

*「肢体不自由者教育論Ⅰ」は、止揚学園（障害者支援施設）福井 生園長を講師として迎えた特別授業とし、職員及び学生のほか卒業生、ノートルダム修道会シスター等も授業を参観した。

2.現状と今後の課題

本年度のオープンクラスは、前期にほぼすべての教員が、後期は各学科から選定した授業を公開した。後期に授業数を絞った理由は、1科目当たりの参観者数が少ないこと、参観者がいない授業が多くあることから、一つの授業を複数名が参観できるようにするのがねらいの一つであった。

前期は、延べ42名（教員38名、職員4名）の参観シートが提出された。そこには、授業内容が非常に興味深かった点、授業方法がとても参考になった点などが書かれており、オープンクラスの実施については、個々の教員の授業構築に有意義であることが明らかであった。そして、参加者のあった41科目中、2名の参加者のあったのが3科目、3名の参加者のあったのが1科目で、残りの37科目はすべて1名の参加者であった。後期は、冒頭で述べたとおり各学科から選定した科目を公開した。当初は1学科につき1科目とすることを検討したが、授業数が全5科目に絞られ、参加できない教員が発生することが予想された。そのため、学科つきに1科目と限らず、複数科目でも良いということに変更し、こども教育学科は一教員1科目を公開した。

提出された参観シートは延べ9科目14名分で、2名の提出があったのが2科目、オープンクラスのために調整して学外からの講師を招聘した1科目の特別授業に、5名の提出があった。この3科目のうち2科目はこども教育学科の科目である。残り6科目は1名の提出数であった。なお、5名の提出があった特別授業の参加者数自体は、外部からの約10名を合わせて20名程度の参観者がいたことから、その他の授業にも参観シート未提出の参観者がいた可能性があり、1科目あたりの参観者数は、前期よりも多かったと言えるかもしれない。

このことから、単に科目数を絞るのではなく、内容に工夫を持たせたものが参加者数を上げやすいと言えよう。しかし、2桁の参観者数は喜ばしいことではあるが、特別授業にしなければ参観者が増えないというのは、オープンクラスの目的に完全に合致しているとは言えないのではないかと。いずれにしても参観者が必ずしも参観シートを提出するとは限らないので、参観者の絶対数はわからない。自由記述欄も含め、職員か教員かの選択のみで無記名での提出などの方法をとれば、もう少し詳しく参観状況がわかるのではないかとと思われる。また、教員によっては、前期の方法が良いのではないかと意見、後期の方法でもさらに授業数を絞ったほうが良いという意見もあり、どちらが良いかということとは言及できないが、科目数を絞るのであれば、少なくとも全教員がどこかの授業を参観できるような設定であるべきだと思われる。更なる工夫が必要である。

文責： 古庵 晶子 （現代人間学部 こども教育学科 FD委員）

IV 2019年度 FD研修会 実施報告

1. 実施概要

2019年度はFD研修会として以下の研修会を実施した。

内容・テーマ：『大学の授業改革が求められる時代に向けて～動画教材「大学の授業を極める」で学ぶ教授法～』

日時：2019年9月4日(水) 11:00～12:00

場所：ユージニア館3階大講義室

講師：三好 明夫教授（福祉生活デザイン学科 FD委員会委員）

参加者：55名（教員47名 職員8名）

概要：「大学の授業改革が求められる時代に向けて～動画教材「大学の授業を極める」で学ぶ教授法～」と題しアクティブラーニングをテーマに実施した。研修会の前半は、ドラマ仕立ての動画教材『シリーズ大学の授業を極める：アクティブラーニング編』（関西地区FD連絡協議会作成）をもとに、授業の質を高めるためのポイントを共有した。

後半では、授業設計の際に検討すべき要点を意識し、授業計画書を作成する個人ワークと、作成した授業計画書をグループで共有するグループワークを行った。

	学長・副学長	国際言語文化学部		現代人間学部			徳と知 教育セ ンター	事務 職員	計
		英語英文 学科	国際日本 文化学科	福祉生活 デザイン 学科	心理学科	こども 教育学科			
参加者数	1	8	8	13	9	13	1	8	55

(在籍教員数(専任、特任、嘱託)：72)

上記のFD研修会に加えて、「FD勉強会：データサイエンス活用カフェ」を2回開催した。開催の概要は、後掲の開催通知にあるとおりである。第1回の参加者は14名(教員7名、職員7名)、第2回の参加者は18名(教員6名、職員7名、一般5名)であった。

いずれの回もデータサイエンティストの藤田昭人氏を講師に迎えデータサイエンスをめぐる最近の動向や教育研究との関わり等を紹介いただいた。第1回では、藤田氏の情報提供に続き学内教員が本学での授業での実践事例を報告した。いずれの回も参加者同士の意見交換が行われた。

2. 現状と今後の課題

2019年度のFD研修会は本学の三好明夫(現代人間学部福祉生活デザイン学科教授)が講師を担当した。『大学の授業改革が求められる時代に向けて～動画教材「大学の授業を極める」で学ぶ教授法～』というテーマで、まずアクティブラーニングについての説明と動画視聴を行ったうえで参加協働する授業を意識したグループワークにより、参加者の理解を深めることを意識した。

55名の参加者があり、アンケートを提出した52名のうち8名(15.4%)が「大変有意義であった」と答え、34名(65.4%)が「有意義であった」と答えており、80.8%の参加者が有意義であるとの回答であったが、「あまり有意義ではなかった」(4名)、「有意義ではなかった」(4名)との回答もあった。例えば「学生に学びたい心を起こし、それに応える授業を組み立てる努力をしている事例報告を知りたいと思う」や「オープンクラスの目的を示してもらえるとありがたい。授業改善

のため参考となる授業をみたいと思っている」などの意見から今後の研修課題が浮かんでくる。

また「アクティブラーニングの研修はもういいのではないか」という意見も表出された。これは研修計画の際に委員会でも予想していたことであつたが、全教職員の意識と行動がアクティブラーニングの必要性についてどのような理解がなされているのかを確かめたいという思いもあつて実施したものであつた。

とはいえ、「60分が短く感じた。授業案を共有しあうのが大変有意義なのでもう少し時間があればよかった」や「他の先生方の授業について知ることができてよかった」という研修の意義について高評価の回答もあつた。

さらに、今年度は60分という短い時間での実施となつたが、これについては「長すぎず良かった」という評価もあれば「もう少し時間が欲しかった。内容はとてもよかった」という評価もあり、研修内容と合わせながら研修の時間配分についても検討していくことが必要であろう。

「FD勉強会：データサイエンス活用カフェ」の開催については第1回では、はじめにコーディネーターの神月 紀輔教務委員長による、データサイエンス活用カフェ趣旨説明がなされた。つづいて、データサイエンス活用カフェキックオフセミナーとして講師の藤田 昭人氏による社会や教育、研究におけるデータサイエンスについて情報提供が行われた。学内からの話題提供としては、こども教育学科の小川 博士准教授から担当授業での実践報告がなされた。最後に吉田 智子 FD 委員長がまとめを行った。時間が許す限り参加者が自由に意見交換できるよう計画した「カフェ形式」であつた。

参加者アンケートでは「大変有意義であつた」66.7%、「有意義であつた」33.3%と高評価であつた。

第2回では、コーディネーターを吉田 智子 FD 委員長として、第1回同様、神月 紀輔教務委員長からデータサイエンス活用カフェ趣旨説明がなされた。講師の藤田 昭人氏からは、AI スピーカーを利用した傾聴システムの紹介があつた。第1回同様にカフェ形式を意識して時間が許す限り自由な意見交換が行われた。

参加者アンケートの回答は、「大変有意義であつた」が66.7%、「有意義であつた」が16.7%とこちらも第1回と変わらぬ高評価であつた。

FD研修の意義と必要が強く謳われて時間もずいぶん経過している。私たちは新たな教育ツールである manaba や respon について習熟していく必要がある。学内外を問わず研修で得た知識や技術を本学の教育システムの中で、教育の質の充実に向けて一人一人の教職員が自覚と責任のもと実践していくことが不可欠である。

今年度に限らずこれまでの研修において得た FD の学びの成果を教職員が意識して行動に移すこと、その行動を振り返ること、できれば教職員間で振り返りの場を定期的に持つことなどが必要であり、課題でもあるといえる。「FD勉強会：データサイエンス活用カフェ」もこのことを考える一つのモデルとなるのかもしれない。

文責：三好 明夫（現代人間学部 福祉生活デザイン学科 FD 委員）

「大学の授業改革が求められる時代に向けて

～動画教材「大学の授業を極める」で学ぶ教授法～

日 時： 2019 年 9 月 4 日（水） 11：00～12：00

会 場： ユーニア館 3 階 大講義室

講 師： 三好 明夫教授（福祉生活デザイン学科 FD 委員会委員）

< 次 第 >

10:45～	受 付 開 始
11:00～11:05	開 会 挨 拶
11:05～11:55	動 画 視 聴、ワークなど
11:55～12:00	閉 会 挨 拶、連 絡
12：00	閉 会

講演概要

大学の授業においても、学生視点での改革が求められる時代になりました。

今回の研修は、関西地区 FD 連絡協議会 作成のドラマ仕立ての動画教材『シリーズ大学の授業を極める』（アクティブラーニング編）をもとに、授業の質を高めるためのポイントを学びます。

研修の後半では、授業設計の際に検討すべき要点を意識し、個人ワークとグループワークを通じて授業計画書を作成します。新任の先生から、授業の見直しを考えておられる中堅・ベテランの先生まで、楽しく教授法を学びましょう。

※関西地区 FD 連絡協議会は、関西地区にある大学・短期大学が参加する、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する地域連携拠点を目指した互助組織として、2008 年 4 月に発足しました。現在、関西地区の約半数の 134 校（113 法人）が参加しています。

2019年9月17日

教職員の皆様

2019年度「FD 勉強会: データサイエンス活用カフェ」の実施について

FD委員会
委員長 吉田 智子

このたび「FD 勉強会: データサイエンス活用カフェ第1回」を下記のとおり開催します。
昼食をいただきながらの気軽な会を予定しております(各自のお弁当等をご持参ください)。
ご興味のある教職員のみなさまの参加をお待ちしております。参加申込み不要です。

記

日 時: 2019年9月25日(水)11:30~13:00

場 所: ユージニア館3階 アクティブラーニングスペース

当日の流れ (コーディネータ: 神月 紀輔 教務委員長)

- 11:30 データサイエンス活用カフェ趣旨説明(神月教務委員長)

- 11:40 データサイエンス活用カフェ キックオフセミナー
講師: 藤田 昭人氏
データサイエンティストとしてご活躍の藤田昭人氏を講師に迎え、社会や教育、研究におけるデータサイエンスについて情報提供をいただきます。

- 12:20 学内の活用話題提供
こども教育学科 小川 博士 准教授(ほかにも希望者があれば)

- 12:40 質疑応答

- 12:50 まとめ(吉田 智子FD委員長) その後時間が許す限り自由に懇談会
※ 今後、月1回ペースでゆるく開催できればと考えます。

データサイエンス 【data science】

データの分析についての学問分野。統計学、数学、計算機科学などに関連し、主に大量のデータから、何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出すこと、またはその処理の手法に関する研究を行う。これらの研究者および技術者はデータサイエンティストとよばれる。

(デジタル大辞泉より)

問合せ先:
京都ノートルダム女子大学
研究・情報推進課(FD委員会事務局)

教職員の皆様

「FD勉強会：データサイエンス活用カフェ(第2回)」の実施について

FD委員会
委員長 吉田 智子

9月に実施した第1回に引き続き、「FD勉強会：データサイエンス活用カフェ(第2回)」を下記のとおり開催します。

雑談も交えた気軽な会を予定しておりますので、前回は参加しなかった方も参加していただけます。ご興味のある教職員のみなさまの参加をお待ちしております。参加申込み不要です。

記

日 時：2020年1月30日(木)16:40～18:00

場 所：ソフィア館3階 S303

当日の流れ (コーディネータ：吉田 智子 FD委員長)

・16:40 データサイエンス活用カフェ 趣旨説明(神月 教務委員長)

・16:45～17:00 データサイエンス活用カフェセミナー

講師：藤田 昭人氏

データサイエンティストの藤田昭人氏から、社会や教育、研究における AI やデータサイエンスについて、学内関係者向けに情報提供をいただきます。

・17:00～18:00 AI スピーカーを利用した傾聴システムの紹介

藤田氏が開発中の「AI傾聴システム」について、デモを交えて紹介していただきます。

・18:00～

時間が許す限り自由に懇談会

※ 教職員以外に、講師の藤田氏の関係者が参加される可能性があります。

※ ひきつづき、2～3ヶ月に1回ペースでゆるく開催できればと考えます。

データサイエンス 【data science】

データの分析についての学問分野。統計学、数学、計算機科学などに関連し、主に大量のデータから、何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出すこと、またはその処理の手法に関する研究を行う。これらの研究者および技術者はデータサイエンティストとよばれる。

(デジタル大辞泉より)

問合せ先:

京都ノートルダム女子大学
研究・情報推進課
(FD委員会事務局)

V 大学コンソーシアム京都 第25回FDフォーラム(中止)第10分科会 報告

第25回FDフォーラムは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止のため中止となった。実施予定であった概要を報告する。

《テーマ》

「モチベーションクライシスに向き合う」

《発表》

第1発表：真砂 照美氏 佛教大学社会福祉学部教授

題目：「初年次からの体験的学びと体験の言語化ー学習意欲を引き出すためにー」

第2発表：永野 典詞氏 九州ルーテル学院大学人文学部教授

題目：「学生支援におけるソーシャルワーク理論と技術を用いたモチベーションクライシスからの回避について」

第3発表：小原 教孝氏 学校法人平成医療学園宝塚医療大学常務理事・教授

題目：「学校法人理事として考える医療系大学における学生支援について」(仮題)

コーディネーター：三好 明夫 (京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授)

発表後、7グループに分かれてテーマに関するグループワークを行い、各グループから発表を得て、話題提供者がコメントを加えてコーディネーターが総括を行う予定であった。

問題提起と概要

近年は大学入学後、間もない時期に登校しなくなったり、中途退学をする学生も少なくない。学生たちの大学入学動機とともに大学で学ぶことへの意欲低下の検証が必要である。多くの大学では学生が抱える悩みや不安に対応するために、さまざまな支援策が実施されていると、それらがどのような効果を発揮しているのか、あるいは課題を残しているのか、効果につながっているとすれば具体的な取り組みの工夫について共有することが必要である。課題があるとすれば課題解決のためにはどのような対策が必要かを多くの大学間で事例を検討し確かめる必要がある。

学生の支援策には、例えば、学生相談、修学支援、学習支援、ピアサポートの取り組みと課題などが考えられるが、モチベーションクライシスに向き合い、学生たちを支援していく場合には、保護者や関係機関団体との連携も必要である。今回は、大学全体(教職員の連携)の取り組みの必要、教員間が連携して協働で行う学生支援の必要についても考える。

また、初年度教育の充実のため、担任制度やそれに基づく基礎ゼミナールの編成、カリキュラム(学生たちの自主的な学修の学びも含めたもの)改革や再編成、共通教育科目の充実も必要であろう。

大学教育においては、学生たちの目標とすべき人材像を明示し、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成および実施の方針(カリキュラムポリシー)を定めている。

さらにこれらの方針のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるために、入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)を設定している。学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)も重要であろう。学生の学びの充実のために、大学間連携、地域連携・地域貢献、産学協働などのプログラムも用意されよう。

だが、こうした対応だけでモチベーションクライシス、あえてはっきりと表現すると「不本意入学」となった学生を支援することが可能なのだろうか。またダイバーシティの推進に伴い入学する多様な学生を守ることが可能なのだろうか。どのようにして「やる気」や「本気」また「元気」を回復させて学ぶことに意欲を持ち、退学傾向に向かわないよう支援していくことができるのだろうか。
(モチベーションクライシス＝大学生の学習に対する意識の危機的な低下とする)

文責：三好 明夫（現代人間学部 福祉生活デザイン学科 FD 委員）

2019年度FD委員会構成員

委員長	吉田	智子	(人間文化学部 人間文化学科 / 徳と知教育センター)
委員	杉村	美奈	(人間文化学部 英語英文学科)
委員	田中	誉樹	(人間文化学部 心理学科)
委員	古庵	晶子	(現代人間学部 こども教育学科)
委員	三好	明夫	(現代人間学部 福祉生活デザイン学科)
委員	谷	愛子	(研究・情報推進課課長)
事務局	研究・情報推進課		

京都ノートルダム女子大学
2019年度 FD 報告書

2020年5月25日発行

編集 京都ノートルダム女子大学
FD委員会 (事務局: 研究・情報推進課)

発行 京都ノートルダム女子大学
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地
TEL (075) 781-1173 FAX (075) 706-3707
ホームページ <http://www.notredame.ac.jp>



京都ノートルダム女子大学